

クグノ遺跡

発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第189集



2010

財団法人 山形県埋蔵文化財センター



クグノ遺跡

発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第 189 集

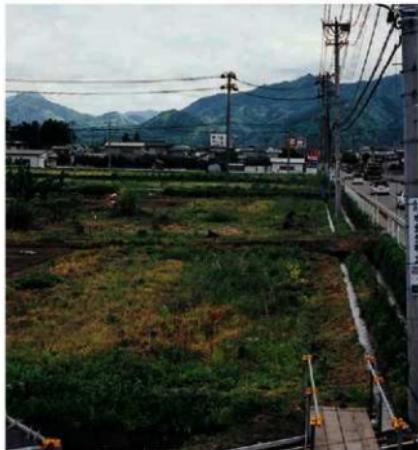
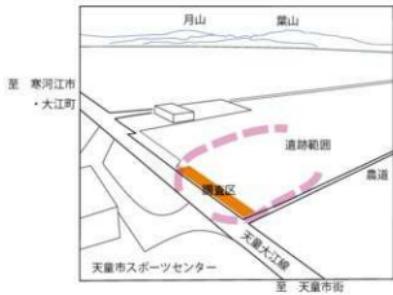
平成 22 年

財団法人 山形県埋蔵文化財センター

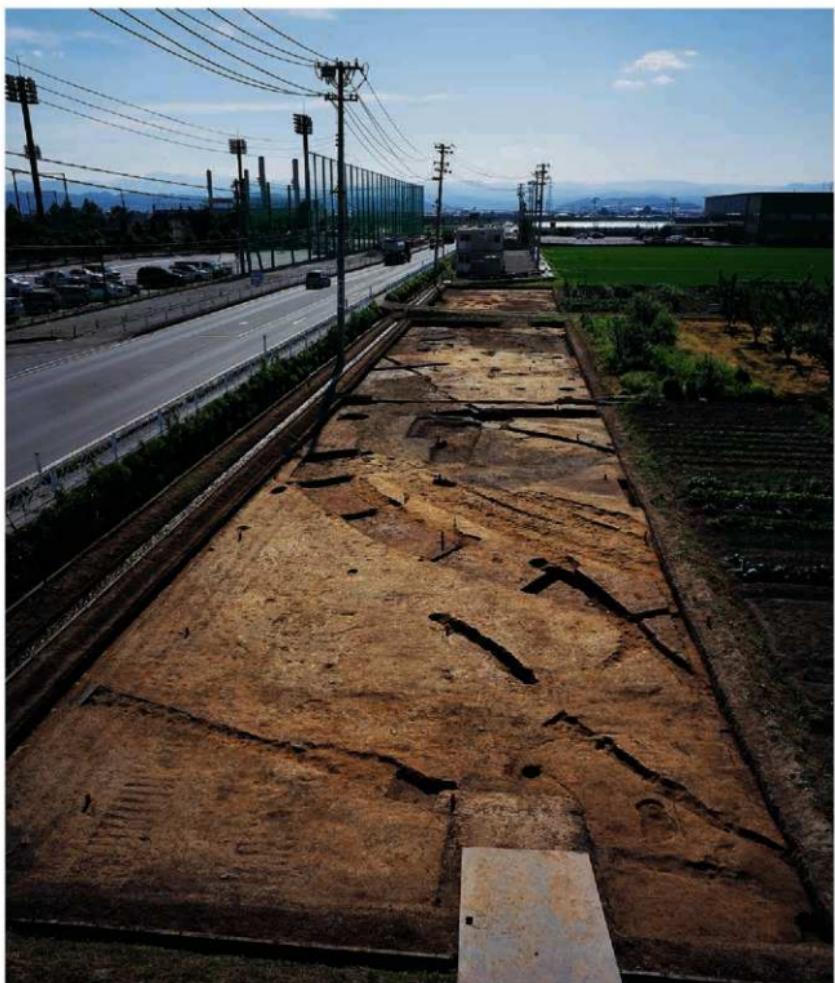




遺跡遠景（南東から）



調査前近景（西から）



調査区完掘全景（東から）

序

本書は、財団法人山形県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した、クグノ遺跡の調査成果をまとめたものです。

クグノ遺跡は、山形県の中央部東寄りに位置する天童市にあります。付近は乱川扇状地の扇端部で、豊富な湧水を抱え、水田や畑地・果樹園が広がる農業地帯です。また周辺には、国指定史跡の西沼田遺跡をはじめ、押切遺跡、板橋1及び2遺跡、的場遺跡など多くの遺跡が存在し、人々が古くからこの地で生活を営んでいたことをうかがい知ることができます。

この度、県が施工する主要地方道天童大江線道路改良工事にかかり、クグノ遺跡の発掘調査を実施しました。調査では、溝跡やピットなどが検出され、平安時代の土師器や須恵器、中近世・近代陶磁器などの遺物が出土しました。

埋蔵文化財は、祖先が長い歴史の中で創造し、育んできた貴重な国民的財産といえます。この祖先から伝えられた文化財を保護するとともに、祖先の歴史を学び、子孫へと伝えていくことが、私たちに課せられた重要な責務と考えます。その意味で本書が文化財保護活動の啓蒙や普及、学術研究や教育活動などの一助となれば幸いです。

最後になりますが、調査において御支援、御協力いただいた関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

平成22年3月

財団法人 山形県埋蔵文化財センター

理事長 山口常夫

凡　例

- 1 本書は、主要地方道天童大江線道路改良工事に係る「クゲノ遺跡」の発掘調査報告書である。
- 2 調査説明会資料などの内容に優先し、本書をもって本報告とする。
- 3 調査は山形県村山総合支庁建設部道路課の委託により、財團法人山形県埋蔵文化財センターが実施した。
- 4 本書の執筆は、武田伸一（第Ⅰ章1・2節、第Ⅱ・Ⅲ章、第Ⅳ章2節、第V章）と須賀井明子（第Ⅰ章3節、第IV章1節）が担当し、柏倉俊夫、小笠原正道、鎌上勝則、安部実、阿部明彦、黒坂雅人、伊藤邦弘が監修した。
- 5 遺構図に付す座標値は、平面直角座標系第X系（世界測地系）により、高さは海拔高で表す。方位は座標北を表す。
- 6 本書で使用した遺構・遺物の分類記号は下記のとおりである。

S D…溝跡・溝状遺構	S K…土坑	S P…柱穴・ビット
S X…性格不明遺構	S G…旧河道	E P…遺構内ビット
- 7 遺構番号は、現地調査段階での番号をそのまま報告書の番号とした。
- 8 遺構実測図は1/40～1/150他の縮尺で採録し、各々スケールを付した。網点の用法については該当図中に示した。
- 9 土層断面図中の色調記載については、2008年版農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版標準土色帖」によった。
- 10 遺物番号は、図版・表・写真図版とともに共通とした。
- 11 遺物実測図の縮尺は1/2で採録した。遺物実測図中の拓本については、断面左側を内面、右側を外側とした。ただし、縄文土器については、断面左側を外側とした。また、断面図の黒ベタは須恵器を表す。
- 12 遺物観察表中の計測値（ ）は推定値、〔 〕は残存値、－は計測不能、空欄は不明もしくは計測不要を示す。
- 13 遺物写真図版の縮尺は、任意である。
- 14 発掘調査および本書を作成するにあたり、下記の方から御助言をいただいた。（敬称略）

勝田徹

調査要項

遺跡名	クグノ遺跡
遺跡番号	平成20年度登録
所在地	山形県天童市大字小間
調査委託者	山形県村山総合支庁建設部道路課
調査受託者	財団法人山形県埋蔵文化財センター
受託期間	平成21年5月12日～平成22年3月31日
現地調査	平成21年5月14日～6月26日
調査担当者	調査課長 阿部明彦 課長補佐 伊藤邦弘 調査研究員 武田伸一（調査主任） 調査員 須賀井明子
調査指導	山形県教育庁文化財保護推進課
調査協力	天童市教育委員会
委託業務	山形県教育庁村山教育事務所 基準点測量 有限会社大和測量コンサルタント 空中写真撮影 株式会社成和技術
発掘作業員	赤石謙也 阿部賢一 岩田正雄 岩山和子 佐藤愛 高橋新子 罗田利雄 東海林光男 布施広幸 古瀬和樹 村形要 村山良三 山口裕美子 結城吾郎 遊佐潤子 吉田啓子（五十音順）
整理作業員	関東美由樹 山口陽子（五十音順）

目 次

I 調査の経緯	
1 調査に至る経緯	1
2 発掘調査の方法と経過	1
3 整理作業の方法と経過	3
II 遺跡の位置と環境	
1 地理的環境	5
2 歴史的環境	5
III 遺跡の概要	
1 基本層序	8
2 遺構と遺物の分布	8
IV 調査の成果	
1 遺構	9
2 遺物	31
V 総括	36
報告書抄録	卷末

表

表1 作業工程表.....	3	表3 遺物観察表.....	31 ~ 33
表2 遺構計測表.....	29 ~ 30		

図 版

第1図 調査区概要図.....	2	第14図 S D 73, 74, 78, 79, 81溝跡・S K 80土坑(2)	20
第2図 地形分類図.....	4	第15図 S D 73, 74, 78, 79, 81溝跡・S K 80土坑(3)	21
第3図 遺跡位置図.....	6	第16図 S D 77, 82溝跡	22
第4図 基本層序.....	8	第17図 S K 3, 16, 66土坑	23
第5図 遺構配置図.....	11	第18図 S P 6, 8, 12, 15, 17 ~ 20ピット	24
第6図 1区遺構実測図.....	12	第19図 S P 21, 37, 39, 41, 42, 46, 47, 49, 52ピット	25
第7図 2区遺構実測図.....	13	第20図 S P 54, 61 ~ 65, 72ピット	26
第8図 3区遺構実測図.....	14	第21図 S X 53, 56性格不明遺構	27
第9図 S D 1, 2, 7溝跡・S P 9ピット.....	15	第22図 S X 59, 83性格不明遺構	28
第10図 S D 10, 13溝跡	16	第23図 遺構出土遺物	
第11図 S D 55, 58溝跡	17	遺構外出土遺物(縄文土器・土師器・須恵器)	34
第12図 S D 67溝跡・S K 69土坑.....	18	第24図 遺構外出土遺物(陶器・磁器・石製品)	35
第13図 S D 73, 74, 78, 79, 81溝跡・S K 80土坑(1)	19		

写 真 図 版

卷頭写真1 遺跡遠景・調査前近景	写真図版6 S D 73, 74, 78, 79, 81溝跡
卷頭写真2 調査区完掘全景	写真図版7 S D 58, 67, 77, 81, 82溝跡・S K 69土坑
	写真図版8 S K 3, 16, 66, 80土坑
写真図版1 1 ~ 3区土層断面・1区完掘状況	写真図版9 S X 53, 56, 59性格不明遺構・S D 55溝跡
写真図版2 2区検出・完掘状況	写真図版10 S P 6 ~ 46ピット
写真図版3 3区検出・完掘状況	写真図版11 S P 47 ~ 65ピット・出土状況・作業状況等
写真図版4 S D 10, 13溝跡	写真図版12 遺構出土遺物
写真図版5 S D 1, 2, 7, 58, 67溝跡・S P 9ピット ・S K 69土坑	写真図版13 遺構外出土遺物(縄文土器・土師器・須恵器他) 遺構外出土遺物(陶器・磁器・石製品)

I 調査の経緯

1 調査に至る経緯

クグノ遺跡の発掘調査は、山形県村山総合支庁による主要地方道天童大江線道路改良工事に伴い実施された。主要地方道天童大江線は、天童市貴津地内を起点に、天童市中心部から東北中央自動車道天童 IC、寒河江市を経由し、大江町を終点とする道路であり、村山地域の主要都市間を連絡する幹線道路として、産業や経済、文化の発展を支える重要な役割を担う道路である。本事業は、本路線に交差する市道整備と合わせた道路ネットワークの整備によって、高速交通体系への連携強化、経済活動や人的交流の効率化を図ることを目的とし、実施されることとなった。

事業が開始されるのに先立ち、山形県教育庁教育やまた振興課文化財保護室（当時）では、平成 19 年 11 月 18・19 日にかけて表面踏査により遺物の分布・地形の確認を行い、当遺跡を可能性地 1 とし、平成 20 年 7 月 1 日、山形県教育庁文化遺産課（当時）で事業計画区域内に $1.5 \times 15 \sim 20\text{ m}$ の調査区を 4 か所設定し、分布調査を行った。その結果、ピット、土坑、流路等の遺構やトレンチ周辺から須恵器、土器類などが見つかり、古代から中世の遺跡と推定された。こうして、クグノ遺跡として山形県の遺跡に新規登録されることとなった。

以上のような経過を踏まえ、財團法人山形県埋蔵文化財センターでは山形県村山総合支庁建設部道路課からの委託を受け、平成 21 年 5 月 14 日から 6 月 26 日にかけて事業区内にかかる遺跡の緊急発掘調査を実施するに至った。

2 発掘調査の方法と経過

現地調査は実働 32 日間で実施した。調査面積は $1,170\text{ m}^2$ である。また、調査区は東西軸を長軸とした長方形で、東西方向に調査区を 3 分割する形で農道と排水溝が南北に走っており、これを境界にして調査区を西側から 1～3 区と設定した。

5 月 14～15 日（第 1 週）

現地調査開始。調査区の範囲と深さを明確にするため、調査区の縦張りと線掘りを行った。

5 月 18～22 日（第 2 週）

線掘りを継続しつつ、重機による表土除去を行い、1 区の遺構検出を行った。また基準点測量とグリッド杭の打設が完了した。

5 月 25～29 日（第 3 週）

遺構検出は 1・2 区、作図は $1/100$ 遺構平面図を行い、遺構検出状況の写真を撮影した。

6 月 1～5 日（第 4 週）

遺構検出は 2・3 区を終了。1 区の遺構精査、土層注記、断面図の作成も開始し、写真撮影は遺構断面、完掘状況、遺構検出状況を随時行った。

6 月 8～12 日（第 5 週）

遺構精査は 1・2 区を行い、作図は $1/20$ 遺構平面図を開始。断面図作成、土層注記・写真撮影等の記録作業を継続した。

6 月 15～19 日（第 6 週）

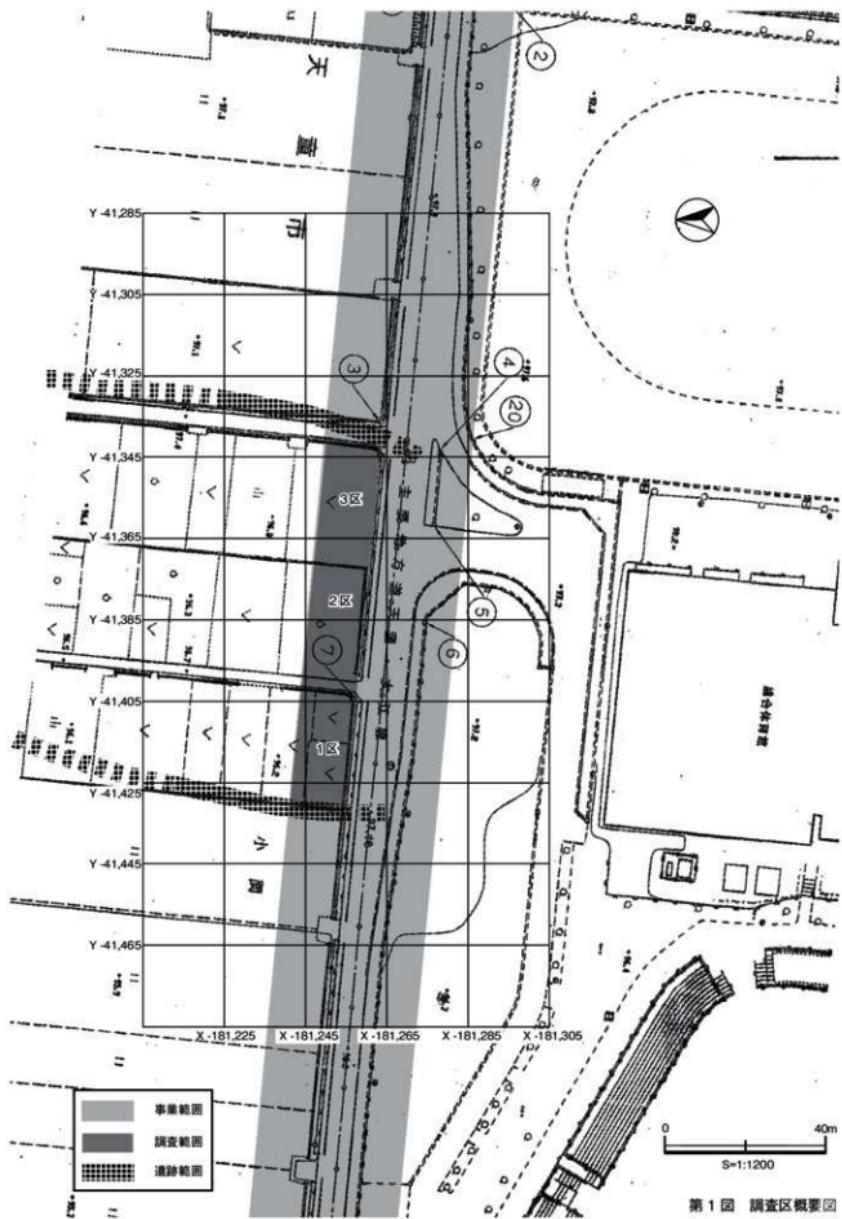
遺構精査は 2・3 区を行い、遺構平面図・断面図作成、土層注記・写真撮影等の記録作業を継続した。

6 月 22～26 日（第 7 週）

遺構精査は 3 区を継続、遺構平面図・断面図作成、土層注記・標高採録・写真撮影等の記録作業を完了した。25 日にはラジコンヘリコプターによる空中写真撮影も行った。26 日器材撤収後、関係者を招いての調査説明会を開き、山形県村山総合支庁建設部道路課に現地の引き渡しを行い、現地調査を終了した。

なお調査区のグリッドは、世界測地系をもとに平面直角座標 X 系： $X = -181,240.000$ ・ $Y = -41,435.000$ を起点（A-1）とし、東西軸、南北軸を基準に 5 m 方眼で設定した。グリッド番号は、起点から南に向かって、アルファベットで A、B、C…、東に向かって、アラビア数字で 1、2、3…と順に番号をつけ、「A-1」のように表記した。グリッドの帰属は、北西隅の杭を基準にした。

I 調査の経緯



第1図 調査区概要図

3 整理作業の方法と経過

整理作業は、現地調査終了直後の6月末より開始し、平成22年3月末までの、約9カ月にわたった。

出土遺物は7月に洗浄→注記→接合→分類の基礎整理を終了した。その後8月までに遺物の抽出→実測→拓本→観察表作成を行っている。この際、図上復元が可能なものは、破片でも反転実測を行った。図はスキャナーで読み込み、デジタルでトレースをして、版組みしている。

並行して、手取りの遺構図面に取りかかり、平面図（検出状況と完掘状況）と個別遺構の断面図に分けて図番号を付し、遺構毎に平・断面図を合わせ補正を行った。この時点では、遺跡の概要や各々の遺構の性格を再度検討して、掲載する遺構を抽出、鉛筆トレースにより作図し、それをもとにデジタルトレースを行った。この際、全体の遺構実測図から個別遺構図を切り取り、版組を行って

いる。遺構・遺物とも、トレース作業は8月中で終了した。

遺構の写真フィルムは、劣化を防ぐため発掘調査終了後すぐに整理を行い、報告書に掲載するフィルムを選び出し、写真図版の編集へと移った。また遺物写真図版についても、レイアウトに沿って遺物の写真撮影を行った。

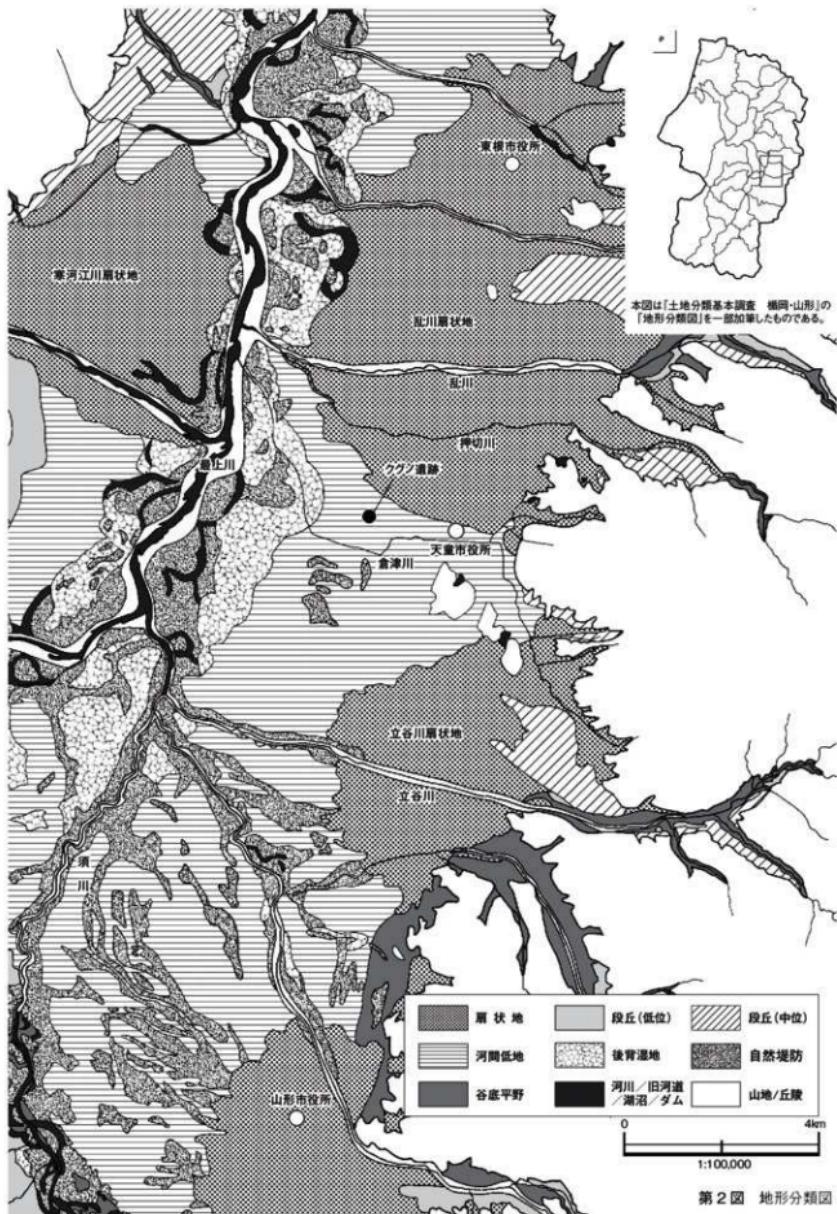
この間、可能なところから、本文の執筆作業に入った。報告書原稿は、平成21年12月下旬に入稿し、その後、校正作業を行い刊行にいたった。

報告書に掲載した遺物については、報告書番号を追加注記して、他遺物と分けてコンテナに収納した。記録類は、保存および活用に適した形に整理し直し、収納を行った。

写真記録については、種別ごとに通し番号を付して台帳化した後、長期保存に耐え得るように温度・湿度が一定に管理された場所に収納した。

表1 作業工程表

平成 二十 一 年 度	発報調査					整理作業										取 納 作 業									
	基礎整理					報告書作成					資料検討														
計画準備	器材搬出	範囲整理・遺構復元	グリット設定	遺構精査	写真記録撮影	図面記録作図	遺物洗浄	注記	接合・復元	分類	遺構図面整理・補正	写真整理	遺物抽出	実測	拓本	トレース	写真撮影	写真抽出・作図	データ処理・作成	写真抽出・版組	校正	入稿準備・入札	印刷・製本・納品	記録類・遺物	
月																									
4月																									
5月																									
6月																									
7月																									
8月																									
9月																									
10月																									
11月																									
12月																									
1月																									
2月																									
3月																									



第2図 地形分類図

II 遺跡の位置と環境

1 地理的環境

天童市は山形県のはば中央、やや東寄りにあって、山形盆地の東部を占めている。東は奥羽山脈、西は最上川、北は乱川扇状地を形成する乱川、南は立谷川扇状地を形成する立谷川によって画されている。面積は113.01km²で、県内13市の中で最小である。市域のうち東側の3分の1は、奥羽山脈とその西縁にある山地によって占められている。3分の2は最上川のつくる沖積平野といくつかの扇状地により構成され、平地は農業生産がおこなわれており、扇状地から丘陵にかけては果樹栽培が盛んである。山形盆地の東部にあるという地理的位置から、気候において内陸盆地型の特徴を示し、特に夏は高溫となり、降水量も年平均1,112mmと山形盆地の中でも最も少なく、逆に日照時間は年間を通じて最も多い。降雪も最深積雪が1mで県内でも最小である。周辺地域との位置関係でいえば、東は閑山街道で仙台と結びつき、西は六十里越街道で庄内と結びついている。南北は羽州街道によって秋田や福島に通じていた。

天童市を構成する扇状地の中でも天童市域の北半分を占め半径11kmの大きさを持つ乱川扇状地は、乱川のほか、押切川・村山野川・白水川によって形成された複合扇状地である。扇頂が閑山で標高240m、扇端は長瀬から成生に至る長い弧状をなし、標高85m前後である。このように扇状地の面積が広い天童市は、伏流している地下水に依存する度合いが高く、湧泉は扇端部の大町・成生・高木などで見られる。特に高木八幡や大清水の水量は豊富で、古くから人々の生活に密接にかかわっていたと考えられる。

クグノ遺跡は、天童市スポーツセンターの北向かい、JR天童駅から直線距離にして西約1kmにあり、押切川と倉津川に挟まれた乱川扇状地の前縁部に位置している。標高は97mを測り、地形は東から西へ若干傾斜している。畠地として利用されていたが、以前は水田であったとみえ、は場整備も実施されている。

2 歴史的環境

天童市に存在する遺跡は、立谷川扇状地上に多く立地するが、乱川扇状地の前縁部や、その西側の最上川によって形成された後背湿地帯の微高地に縄文時代以降の各時代にわたる遺跡が存在している。

縄文前期の遺跡では、本遺跡の北東約1.2kmに柏木遺跡がある。後～晩期の遺跡として、本遺跡の北約0.9kmに高木石田遺跡がある。付近は湧水地帯であり、平安時代も含む大規模な遺跡である。

弥生時代の遺跡である地蔵池遺跡は、本遺跡の約1.2km北にあり、住居跡や埋葬跡の遺構が確認されている県内でも貴重な遺跡である。他にも、弥生土器が出土した塙野目A遺跡や、水稻耕作農業発生当時の遺跡と推定されている縄掛遺跡がある。いずれも扇状地の扇端部の湧水地帯であることから、当時の水稻耕作には絶好の場所であったことがうかがわれる。

古墳時代の遺跡には、板橋2遺跡があり、鉄刃が装着されたと思われる鎌柄が出土し、古墳時代前期には山形盆地でも鉄器が使用されていたことが分かった。西沼田遺跡は後期の集落跡であり、律令体制以前の生活状況を知る上で貴重な遺跡として国指定史跡となった。

奈良・平安時代になると、乱川扇状地南西縁上にいくつもの遺跡が連なるようになる。古墳時代中期を主体としているが、本遺跡から北西約2kmにある的場遺跡では、仏教寺院が存在した可能性が指摘されている。また、1km北東には押切遺跡があり、手工業の生産の要素を含んだ集落跡とされている。このほかにも、三条条里遺構・高木石田遺跡・地蔵池B遺跡などがある。

律令体制が崩壊した平安後期には成生莊が現市域に成立している。成生莊は拱門家領を経て皇室領となるが、鎌倉時代には二階堂氏や中条氏が地頭職を持っていたと考えられ、大清水には二階堂氏の居館、もしくは莊家とも推定される二階堂遺跡がある。後に天童氏を称した里見氏が発展するが、16世紀後半最上義光に迫られ、天童は最上氏の領するところとなり近世を迎える。

II 遺跡の位置と環境



※国土地理院発行2万5千分の1地形図「天童」「塞河江」を使用

第3図 遺跡位置図

番号	遺跡名	種別	時代	番号	遺跡名	種別	時代
1	クグノ	集落跡	平安～近代	31	縦掛B	集落跡	縦文・弥生
2	高木館	城館跡	室町～安土桃山	32	縦掛A	集落跡	平安
3	高木石田	集落跡	縦文、平安	33	千刈	集落跡	平安
4	高木石田墳墓	墳墓	南北朝	34	千刈条里遺構	条里遺構	平安
5	高木原口	集落跡	古墳、平安	35	藤田	集落跡	奈良
6	北畠	集落跡	平安	36	塚田	集落跡	縦文
7	押切	集落跡	平安	37	鍾ノ町	集落跡	縦文
8	歳増押切	集落跡	古墳・平安	38	鍾ノ町条里遺構	条里遺構	平安
9	八反記田	集落跡	縦文	39	天童古城（舞鶴山城）	城館跡	南北朝～安土桃山
10	清池清水	集落跡	古墳	40	塚野日B	集落跡	平安
11	板橋1	集落跡	縦文・古墳・平安	41	塚野日A	集落跡	彌生～平安
12	板橋2	集落跡	縦文・古墳	42	須田	集落跡	縦文
13	三条条里遺構	条里遺構	奈良～平安	43	矢口	集落跡	縦文
14	地蔵池B	集落跡	平安	44	塚野日古墳群	古墳	奈良
15	地蔵池A	集落跡	縦文～弥生	45	高野坊	寺院跡	鎌倉～室町
16	柏木	集落跡	縦文	46	二階堂氏星敷	城館跡	鎌倉
17	天童織田館（織田館）	城館跡	江戸	47	後藤原	集落跡	縦文
18	小矢野日	集落跡	平安	48	亂川A墳墓	墳墓	平安
19	西沼田	集落跡	古墳	49	亂川B墳墓	墳墓	平安
20	歳増北A	集落跡	鎌倉	50	亂川C墳墓	墳墓	平安
21	歳増城	城館跡	室町～江戸	51	善行寺跡	寺院跡	室町～安土桃山
22	歳増北B	集落跡	平安	52	八幡山墳墓群	墳墓	安土桃山
23	的場	集落跡	平安	53	八幡山古墳	古墳	奈良
24	一乗塚	墳墓	室町	54	坪岡遺跡	集落跡	平安～江戸
25	成生館	城館跡	南北朝～安土桃山	55	瀧本	集落跡	平安～江戸
26	成生古	古墳	古墳	56	五反田条里遺構	条里遺構	平安
27	金谷	製鉄跡	縦文・鎌倉	57	頭無	集落跡	平安
28	熊野堂前	集落跡	縦文	58	燒失層	集落跡	平安～江戸
29	瓜小屋	集落跡	縦文	59	慶正寺跡	寺院跡	室町
30	稚塚	集落跡	縦文				

III 遺跡の概要

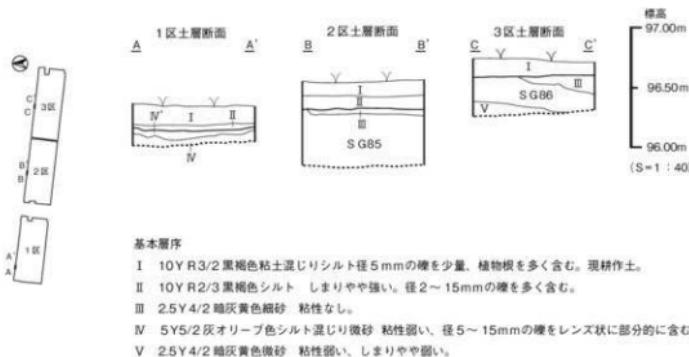
1 基本層序

調査区は東西方向に 90 m を測り、東から西側へ若干傾斜している。調査区をほぼ三等分割し、それぞれの区で一ヶ所ずつ土層断面の確認を行った。I～V 層に分け、I 層を表土、II 層を旧表土、III・IV 層を遺構検出面、V 層を地山とした。は場整備で削平を受けているため、表土である I・II 層の厚さは 20 cm 程度で III 層に到達する。加えて、III 層自体も削平を受けているとみられ、1 区土層断面では II 層直下で IV 層が確認された。IV 層は礫をレンズ状に含んでいるが、河川の氾濫による堆積と考えられる。2・3 区土層断面では III 層直下で、北東から南西に向かう河川跡が確認された。

2 遺構と遺物の分布

は場整備により多くの遺構が削平を受けたと考えられるため、遺構の分布は全体的に希薄である。特に 1 区は顕著である。2 区ではピットが多く検出されている。また、北東から南西に向かう旧河道があり、埋まつた後にピットが掘られている。柱痕を確認できるピットもいくつかあるが、いずれも関連性は認められず、建物跡を検出するには至っていない。3 区はピットがあまり検出されず、溝跡が主体となっている。その多くは、北東から南西に向かう旧河道とほぼ並行している。

遺物は、遺構出土の遺物が 1 区 6 点、2 区 2 点、3 区 15 点で、3 区から多く出土している。中でも 3 区の溝跡から出土した遺物は土師器や須恵器を中心とする。しかし、そのほとんどが覆土の 1 層目からの出土である。遺構出土の遺物は 1 区 12 点、2 区 41 点、3 区 1 点で、2 区からの出土が突出している。その中で、土師器と中世および近代陶磁器が大半を占める。



第4図 基本層序

IV 調査の成果

1 遺構

遺構登録したのは、溝跡 16 条、土坑 6 基、ピット 49 基、性格不明遺構 10 基、旧河道 2 条の、合計 83 基である。

A 溝跡

主軸方向が、北東から南西へ伸びる溝跡と、南北方向に伸びる溝跡とに大きく分けられるが、それぞれの時期や用途は特定出来ない。

SD 1・2 溝跡（第 9 図、写真図版 5）

1 区西側で IV 層中に検出された。規模は、SD 1 が幅 20 ~ 25cm、残長 1.8m あり、SD 2 が幅 17 ~ 32cm、残長 5.19m、底面の標高は共に 96.18m であった。主軸方位は概ね N - 30° - E である。SD 1 と 2 は覆土・位置関係から見ても、本来一繋がりの溝と考えられる。SD 1 から磁器（1）、SD 2 から陶器片（2）が出土した。

SD 7 溝跡（第 9 図、写真図版 5）

1 区中央に位置する。規模は、幅 24cm、長さ 3.27m、底面の標高は 95.96m、主軸方位は南北で、N - 8° - E である。SP 9 の柱根部分を壊している。遺存状態は良くない。

SD 10・13 溝跡（第 10 図、写真図版 4）

1 区の東側に位置する。規模は SD 10 が幅 74 ~ 95cm、底面の標高は 96.10m、長さ 5.64m、SD 13 が幅 56 ~ 70cm、底面標高 96.04m、長さ 1.62m を測る。主軸は、ほぼ南北を示す。断面形は不整の台形を呈する。SD 10 の北半では、底部から小円礫を多数検出した。人為的に入れたと見られる。縁辺内側の EP 14 周りや覆土にも同様の円礫が入る。EP 14 の南方 1.3m で、溝跡の縁辺に並行する様に、もう 1 基ピットが検出されており、この溝に付帯した設備の可能性がある。SD 10 と 13 は、間に砂礫層を挟むが、位置や規模・覆土の状態から同一の溝の可能性もある。

SD 55 溝跡（第 11 図、写真図版 9）

2 区中央南寄りの III 層中に、SX 53 に切られる形で検出された。規模は幅 60cm、底面標高 96.08m である。

長さは 2.56m で、主軸はほぼ東西方向を向いている。底部は北側に向かい深くなっている。覆土の酸化が著しいが、遺存状態は悪くない。底面から SP 62 ピットが検出されたが、関連は不明である。

SD 58 溝跡（第 11 図、写真図版 5・7）

2 区中央南から 3 区西側にまたがる溝跡で、III 層を掘り込んでいる。3 区 SX 69 付近で「く」の字形に屈曲する。溝北部の主軸は N - 42° - E であるが、屈曲部で西に 30° 向きを変える。幅 23 ~ 50cm、底面標高は 96.14 ~ 96.20m、検出長 23.4m を計る。部分的に薄く、遺存状態はあまり良くない。SD 67・SK 69・SX 59 を壊して流れ、SD 68 に切られる。須恵器・土師器各 1 点ずつ出土した。

SD 67 溝跡（第 12 図、写真図版 5・7）

3 区西端に位置し、南北方向に延びる溝跡である。III 層と V 層を掘り込んで作られている。直線的で、規模は幅 145 ~ 176cm、底面標高は 95.80 ~ 95.97m、検出長 6.67m を測る。南端は SG 86 と切り合う部分で浅くなって途切れる。遺存状態は比較的良い。SK 69 → SD 67 → SD 58 の順で作られた。北壁の土層断面に、溝跡が埋まる途中に掘られた土坑状の痕跡が残る。覆土 1 層は、溝に堆積物が溜まった後に、人為的に埋め戻されたと見られる。溝縁辺部から須恵器の壺と思われるもの（3）が 1 点出土したが、遺構の時期は特定出来ない。

SD 73 溝跡（第 13 ~ 15 図、写真図版 6）

3 区中央部を北東から南西に向かい、やや内湾しつつ斜めに走る。III 層を掘り込んで作られている。規模は幅 180 ~ 210cm、底面の標高は 95.70 ~ 95.99m ある。検出上面からの深さ 67cm、検出長は 14m ある。主軸は北側で N - 40° - E となっている。溝底は平らで壁は約 50 ~ 60° 程の傾きで直線的に立ち上っている。覆土は主に黒褐色粘土の自然堆積土で、遺存状態は良好である。下流で SX 83 に合流する形となっている。SD 81 と SK 80 に壊される。陶器擂鉢（4）と土師器片の合わせて 7 点出土しているが、流れ込みの可能性が高く、近代以降の水路と見られる。

S D 74 溝跡 (第 13 ~ 15 図, 写真図版 6)

3 区中央部のⅢ層中で、S D 73 に沿うようにカーブした形で検出された。規模は、幅 185 ~ 260cm、底面は標高 96.34 ~ 96.40m、検出された深さ 10 ~ 20cm、検出長 1.15m である。浅い溝の底面にさらに 2 条の細い溝跡が走る。平面形は不整で、上部が削平されているためか、南西端の S X 83 手前で途切れ、遺存状態は良くない。S D 81 に切られる。須恵器・土師器片 4 点出土。

S D 81 溝跡 (第 13 ~ 15 図, 写真図版 6, 7)

3 区中央北寄りでⅢ層中に検出された。規模は、幅 42 ~ 61cm、底面の標高が 96.38m あり、やや S 字カーブを描きつつ、S D 73・74・79 を切って S K 80 に接続している。S D 74 を切ってはいるが、途中からプランが不鮮明になり、南端部が不明である。断面形は台形を呈する。土層は 1 層のみで、埋められた可能性が高い。遺存状態は良くない。

S D 77 溝跡 (第 16 図, 写真図版 7)

3 区東端でⅢ層中に検出された。主軸方位は N - 30° - E の比較的直線的な溝跡である。規模は幅 34 ~ 84cm、底面の標高が 96.40 ~ 96.44m、検出長 11.60m で、中央部で部分的に膨らむ。

S D 82 溝跡 (第 16 図, 写真図版 7)

3 区東端で、Ⅲ層中に検出された。規模は幅 24 ~ 53cm、底面標高 96.34 ~ 96.38m、検出長 8.15m、主軸方位は N - 57° - E を測る。平面形は直線的である。この周辺は重機による現代の搅乱も多く、遺存状態は良くない。

B 土坑**S K 3 土坑** (第 17 図, 写真図版 8)

1 区中央部北寄りに検出された。平面形は不整の円形で、壁の立ち上がりが緩やかな、極めて浅い土坑である。規模は長軸 134cm × 短軸 107cm、長軸は N - 35° - E を測る。底面の標高は 96.12m を測る。底面や断面に根の搅乱と見られる部分があり、遺存状態はあまり良くない。S X 84 と境を接している。土は酸化が著しく、米粒大的炭化粒を含む。出土遺物はない。

S K 16 土坑 (第 17 図, 写真図版 8)

2 区西北角のⅢ層中に位置する。平面形は不整の方形で、壁はほぼ垂直に落ち込んでいる。底面には凹凸が見られ、1 層下部に多量の礫を含む。規模は、長軸 78cm

× 短軸 66cm、深さ 36cm、南北方向に主軸を持つ。複雑関係はなく、遺存状態は比較的よい。底部付近から、クルミの外殻が 1 点出土した。

S K 66 土坑 (第 17 図, 写真図版 8)

3 区南西部の S G 86 の覆土を掘り込んだ円形の土坑である。S X 83 に接し、上部を切られる。壁はほぼ垂直に掘り込まれておらず、北側部分は崩れて袋状になっていた。規模は径 100cm ~ 110cm、深さ 42cm である。土層は、南側から徐々に堆積していく様子がうかがえる。遺存状態は比較的よい。出土遺物は見られないため、時期の特定は出来ない。S G 86 が埋まつた後、旧河道の地下水脈を利用するため掘られた井戸の可能性がある。

S K 80 土坑 (第 13・14 図, 写真図版 8)

3 区北東部、S D 73 と S D 81 溝跡を切る形で検出された。平面形は隅丸方形で、南西側の 1 段浅いテラス状を呈する部分は 33cm ある。壁はほぼ垂直に落ち込んで掘られている。規模は長軸 195cm、短軸 70cm、深さ 65cm、主軸方位は N - 60° - E である。自然堆積で、遺存状態も良好である。検出当初は墓坑と考えられたが、覆土は自然堆積で出土遺物もなく、性格は不明である。

C ピット (第 18 ~ 20 図, 写真図版 5, 10, 11)

25 基を同化した。柱痕跡や根固め石が見られる柱穴は少なく、建物跡を構成するまでには至らなかった。

D 性格不明遺構**S X 56** (第 21 図, 写真図版 9)

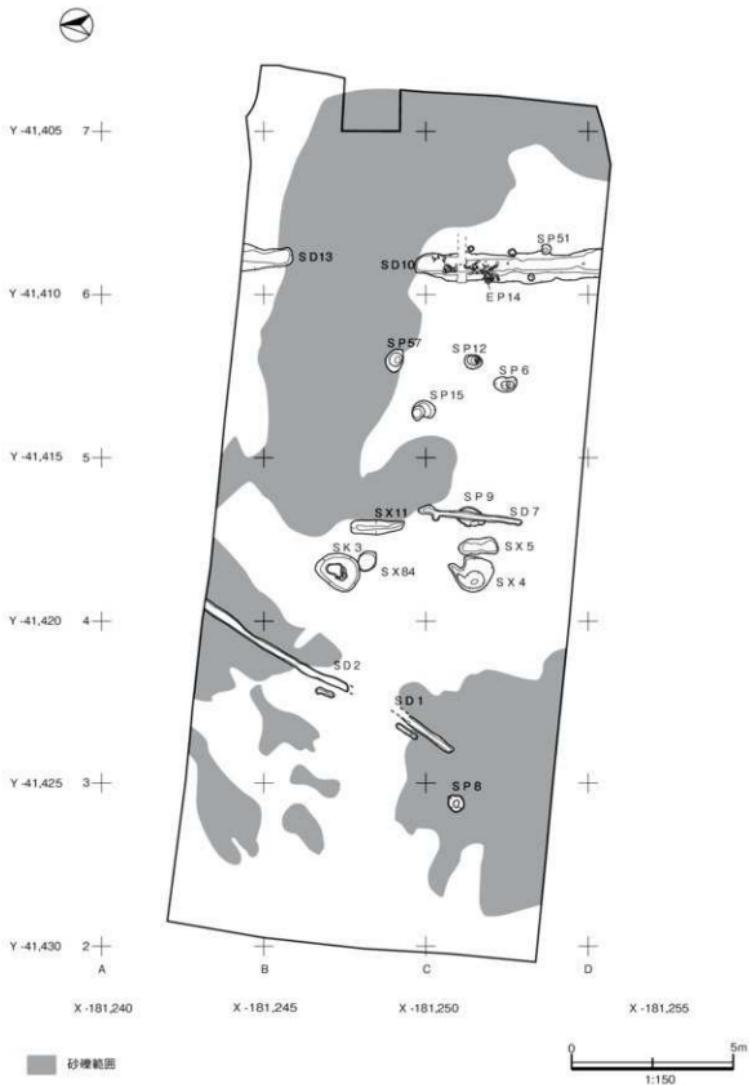
2 区中央南寄り、Ⅲ層中に位置する。細長い溝状遺構で、東側先端部がやや広くなっている。底面は南側に向かい深くなっている。規模は、長軸 4.2m、短軸 70 ~ 114cm、底面の標高は 96.04m で主軸方位は東西を向いている。特に 2 層・3 層で炭化粒が層状に大量に見られた。遺存状態は良くない。西端を S X 53 に切られている。

S X 53・59・83 (第 21・22 図, 写真図版 9)

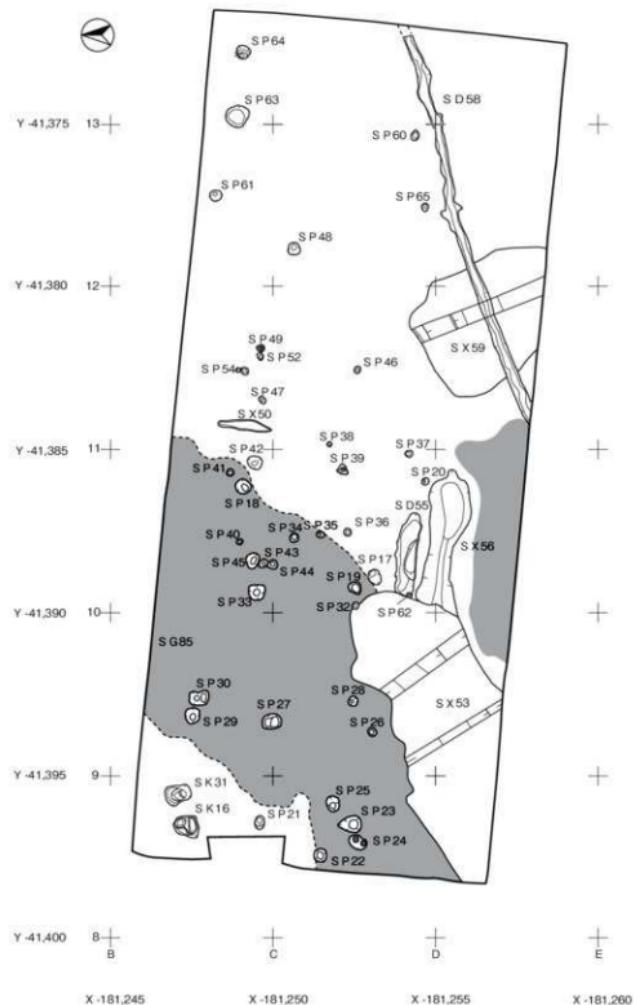
3 基とも自然遺構と考えられたため、トレンチ調査を行って土層を確認した。特に S X 53・83 は、それぞれ旧河道の流路がややカーブした外側の南岸に位置する。S X 53 は幅 3m 程度で残存する深さは 36cm、S X 83 は深さ 65cm である。断面は水成の自然堆積を示すため、旧河道にかかる湿地状の窪地であったと見られる。



第5図 造構配置図



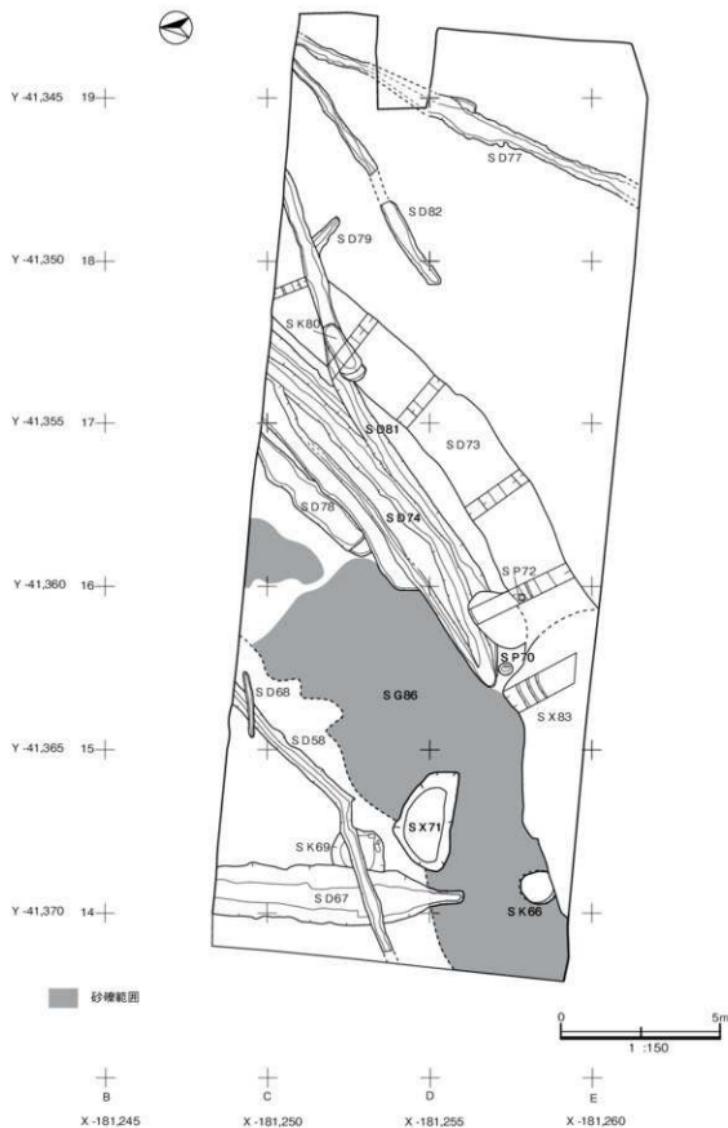
第6図 1区遺構実測図



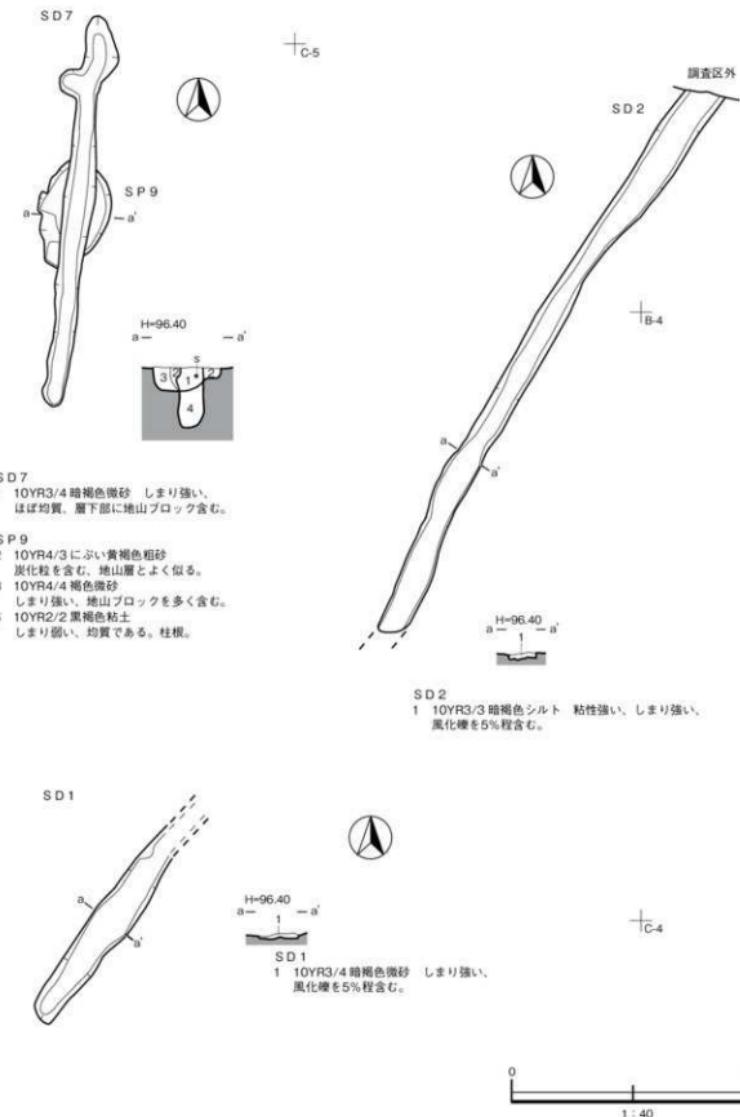
砂堆積図

0
5m
1:150

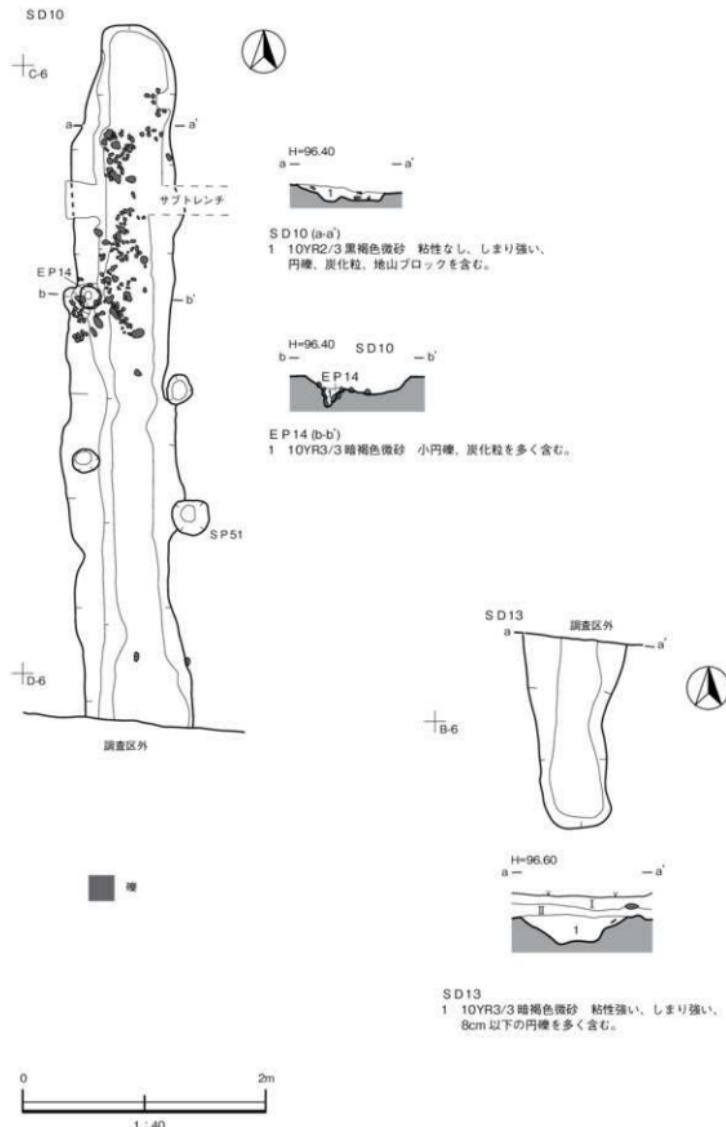
第7図 2区遺構実測図

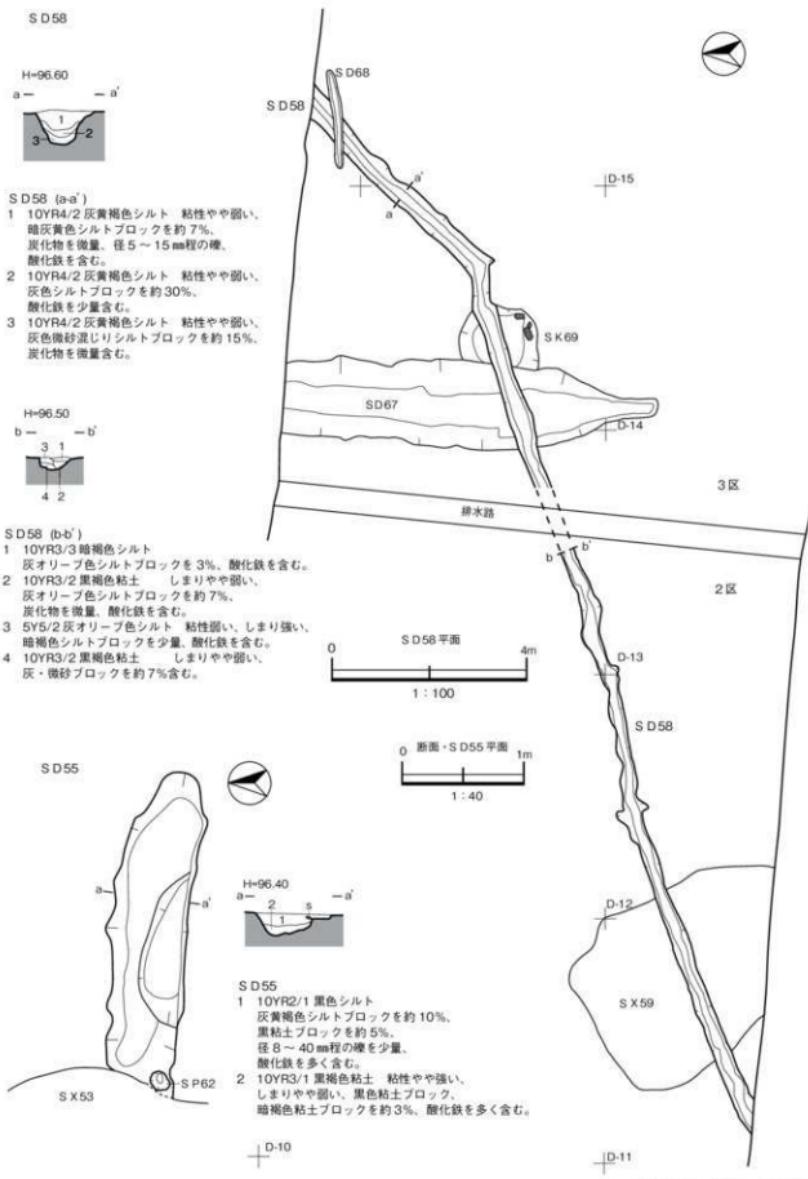


第8図 3区遺構実測図

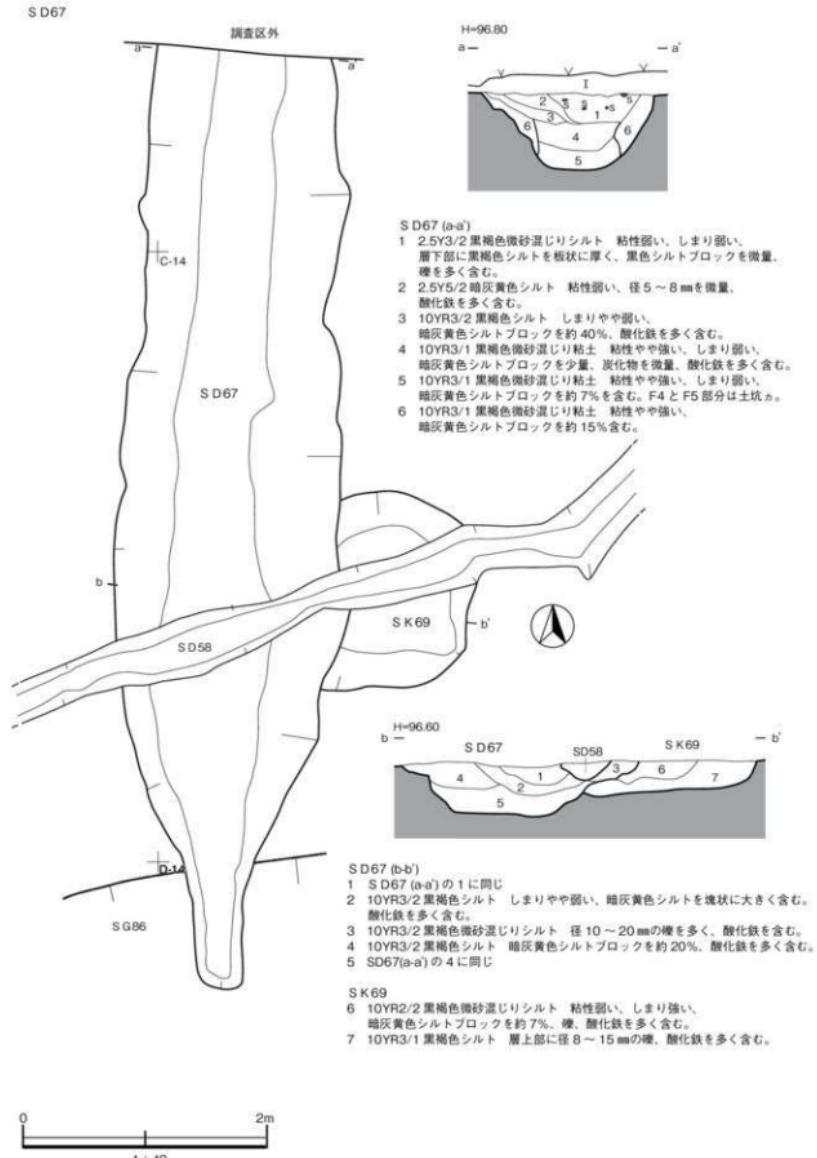


第9図 SD 1, 2, 7溝跡・SP 9 ピット

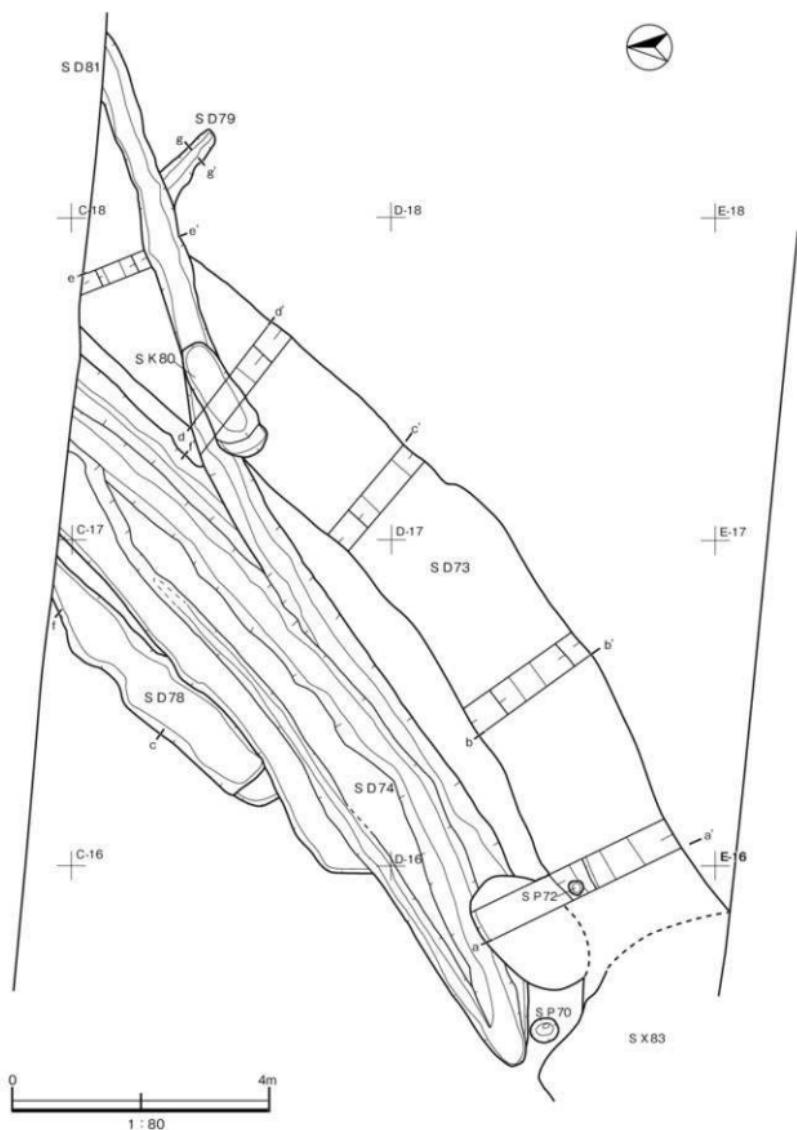




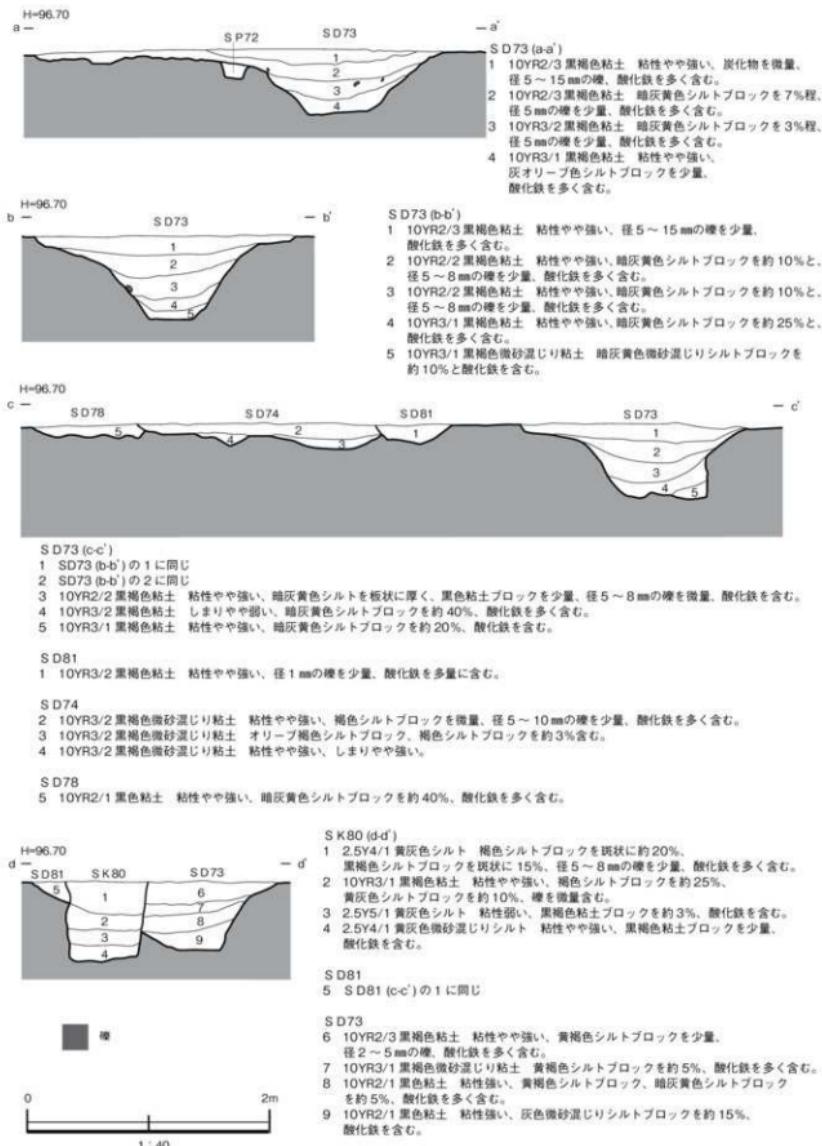
第11図 SD55, 58溝跡



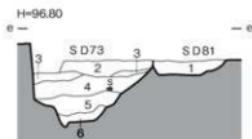
第12図 SD67溝跡・SK69土坑



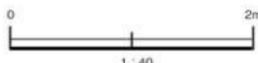
第13図 SD73, 74, 78, 79, 81溝跡・SK80土坑(1)



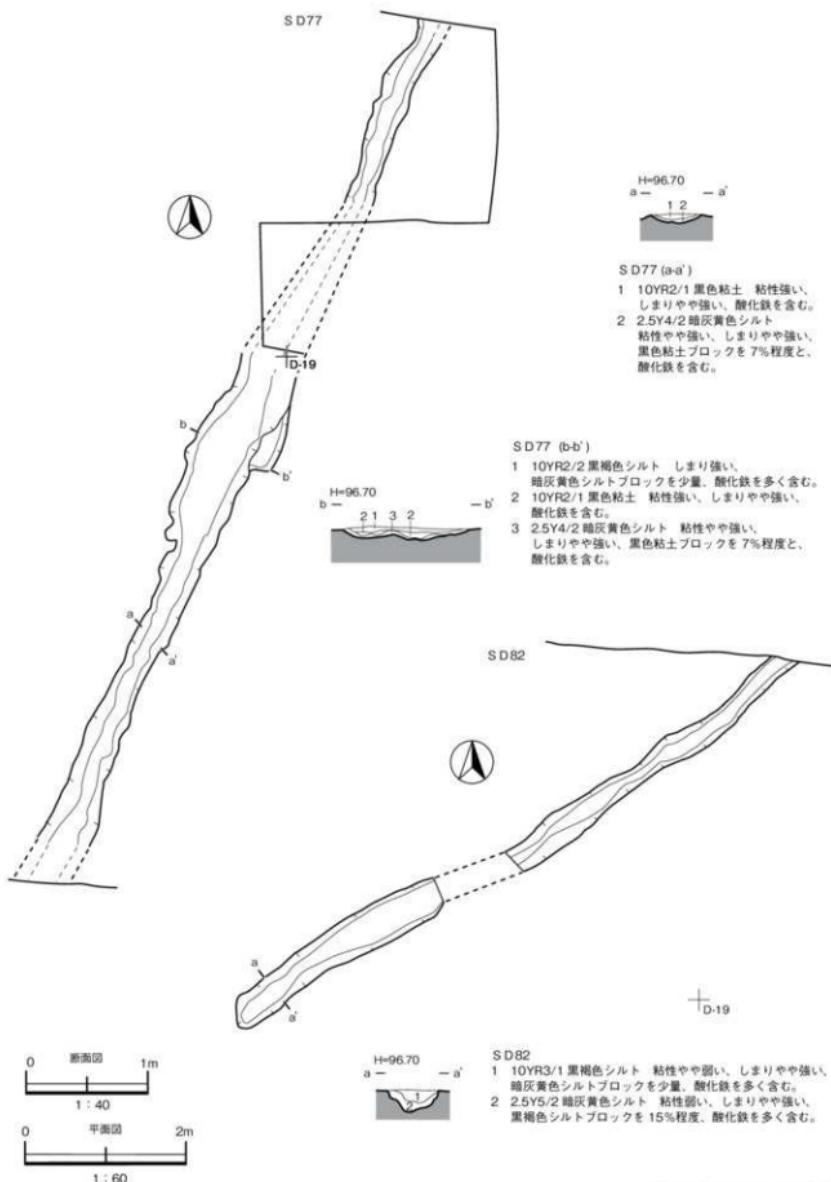
第 14 図 SD73, 74, 78, 79, 81 溝跡・SK80 土坑 (2)



- SD73
 1 10YR3/2 黒褐色粘土 しまりやや強い、暗灰黄色シルトブロックを約2%、径2mmの礫を少量、酸化鉄を多く含む。
 2 10YR3/2 黒褐色微砂混じり粘土 粘性やや弱い、しまりやや強い、褐色シルトブロックを約15%、黒色粘土ブロックを約7%、酸化鉄を多く含む。
 3 10YR3/2 黑褐色微砂混じり粘土 しまりやや強い、暗灰黄色シルトブロックを約3%、黒色粘土ブロックを約1%、礫を含む、酸化鉄を多く含む。
 4 10YR3/2 黑褐色粘土 粘性やや強い、しまりやや強い、黄灰色シルトブロックを約40%、黒色粘土ブロックを約7%、酸化鉄を多く含む。
 5 10YR3/1 黑褐色粘土 粘性強い、黄灰色シルトブロックを約15%、酸化鉄を含む。

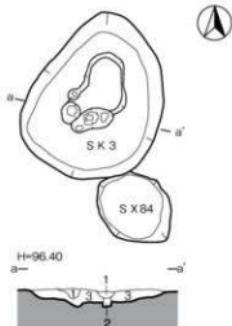


第15図 SD73, 74, 78, 79, 81溝跡・SK80土坑(3)



第16図 SD77, 82溝跡

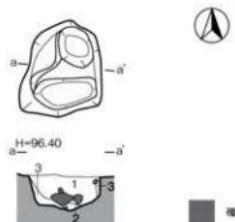
SK 3



SK 3

- 1 10YR2/2 黒褐色微砂 しまり強い、白色粘土粒を少し含む。擾乱。
- 2 10YR4/2 灰黄褐色微砂 粘性強い、しまり弱い。擾乱。
- 3 10YR3/4 暗褐色微砂 しまり強い、炭化鉄を微量含む。酸化鉄を含む。

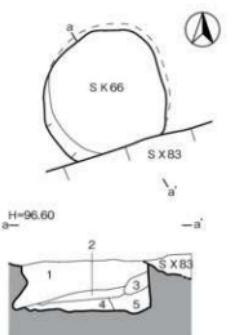
SK 16



SK 16

- 1 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性やや弱い、しまりやや弱い。
暗灰色微砂ブロックを約40%、鐵、酸化鉄を多く含む。
- 2 5Y4/1 灰色粘土 粘性やや強い、しまり弱い。
黒褐色シルトブロックを多く含む。
- 3 5Y4/1 灰色微砂 粘性弱い、しまりやや強い。
オリーブ黒色シルトブロックを約5%含む。

SK 66

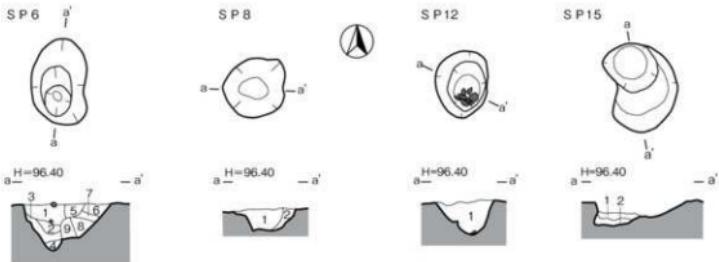


SK 66

- 1 10YR2/1 黒色粘土 粘性やや強い、しまりやや弱い。
灰色シルトブロック約5%、徑5~10mmの礫、酸化鉄を多く含む。
- 2 10YR3/1 黒褐色微砂混じりシルト しまりやや弱い。
灰色シルトブロックを約40%、酸化鉄を多量含む。
- 3 5Y4/1 灰色微砂混じりシルト しまりやや弱い。
黒色シルトブロックを板状に極厚く含む。酸化鉄を多く含む。
- 4 7.5Y5/1 灰色シルト混じり微砂 粘性弱い、しまり弱い。
- 5 7.5Y5/1 灰色シルト混じり微砂 粘性弱い、しまり弱い。
黒褐色シルトブロックを約10%含む。



第17図 SK 3, 16, 66 土坑

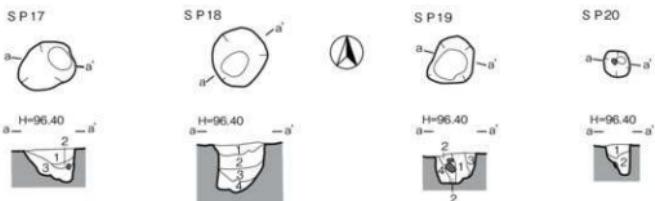


SP 6

- 10YR4/2 灰黃褐色微砂 層下部に地山ブロックを含む。
- 10YR4/2 灰黃褐色微砂 1と似るが、小礫を少し含む。
- 10YR2/3 黑褐色シルト 粘性強い。しまり弱い。層下部に灰褐色シルトを含む。
- 10YR1.7/1 黒色粘土 しまり弱い。均質、柱根か。
- 10YR4/4 棕褐色微砂 地山ブロックを斑状に含む。
- 10YR3/4 暗褐色微砂 粘性なし。しまり強い。大きな地山ブロックを層上部に含む。
- 10YR5/6 黄褐色微砂 粘性なし。約80%以上が地山ブロック。
- 10YR5/4 に似る黄褐色微砂 粘性やや強い。しまり強い。
- 10YR5/6 黄褐色微砂 7に似る。層下部に8の粗砂を含む。

SP 8

- 10YR3/2 黑褐色シルト しまり強い。5cm以下の円陣、2cm以下の風化礫を約10%含む。
- 10YR4/6 棕褐色・細砂 しまり強い。風化礫を70%程含む。



SP 17

- 10YR3/1 黑褐色シルト 粘性弱い。しまり強い。径5~10mmの礫を含む。
- 10YR2/1 黑色シルト 粘性やや強い。しまりやや強い。黒褐色粘土ブロック、粗砂を少量含む。
- 10YR2/1 黑褐色シルト粘性やや強い。しまりやや強い。黄褐色シルトブロックを約20%、礫を少量含む。

SP 18

- 10YR2/2 黑褐色微砂混じりシルト 粘性弱い。しまり強い。暗灰黄色シルトブロックを3%、径5~10mmの礫を少量含む。
- 10YR2/2 黑褐色微砂混じりシルト 暗灰黄色細砂ブロック約15%。径7~20mmの礫を少量含む。
- 10YR2/2 黑褐色微砂混じりシルト 暗灰黄色細砂ブロックを約50%含む。
- 5Y4/2 灰オーリーブ色細砂 粘性なし。しまり弱い。黒褐色シルトブロックを少量含む。

SP 12

- 10YR3/3 暗褐色微砂 しまり強い。10cm以下の円陣約50%、地山ブロックを含む。底面にも礫を含む。

SP 15

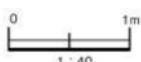
- 10YR4/4 棕褐色微砂 小礫、地山ブロックを約60%以上含む。
- 10YR3/3 暗褐色粘土 粘性強い。ほぼ均質。

SP 19

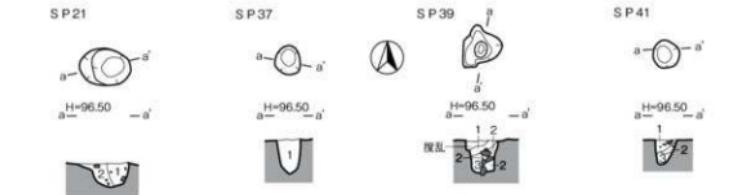
- 10YR3/2 黑褐色シルト 粘性やや弱い。しまり強い。粗砂をブロック状に約10%、礫を微量含む。
- 10YR3/2 黑褐色シルト 粘性やや弱い。しまり強い。粗砂をブロック状に約10%、礫を多く含む。
- 5Y4/4 オリーブ色粗砂 粘性弱い。しまり強い。礫を多く含む。
- 10YR3/2 黑褐色細砂 粘性弱い。しまり強い。礫を多く含む。

SP 20

- 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト 粘性弱い。しまり強い。黒褐色シルトを約10%、炭化物を微量含む。
- 10YR3/1 黑褐色シルト 粘性やや強い。しまり強い。礫を多く含む。



第18図 S P 6, 8, 12, 15, 17~20 ピット



S P 21

- 1 10YR3/1 黒褐色シルト 暗灰黄色細砂ブロックを約50%、黒色粘土ブロック、酸化鉄を少量、径15~35mmの礫を含む。
- 2 10YR3/1 黒褐色シルト 暗灰黄色シルトブロックを約30%、径5~8mmの礫を少量含む。

S P 39

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性弱い、しまりやや強い、灰オリーブ色シルトブロック約40%、径8~10mmの礫を微量含む。
- 2 10YR3/2 黒褐色シルト 灰オリーブ色シルトブロックを層上部に約30%含む。
- 3 2.5YR2/2 暗灰黄色シルト 粘性弱い、しまりやや強い。

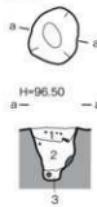
S P 37

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト
- 2 10YR3/2 黒褐色シルト 暗灰黄色シルトブロック約40%、酸化鉄を多く含む。

S P 41

- 1 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱い、礫を多く含む。
- 2 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性弱い、礫を少量含む
- 3 10YR2/2 黒褐色細砂混じりシルト しまりやや弱い。

S P 42



S P 42

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性弱い、しまりやや強い、径10~25mmの礫を含む。
- 2 2.5Y4/2 暗灰黄色細砂混じりシルト 粘性弱い、灰オリーブ色シルトブロックを約5%、径8~25mmの礫を多く含む。
- 3 5Y4/1 暗灰色混じりシルト しまりやや弱い、礫を少量含む。

S P 47

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト 暗灰黄色シルトブロックを3%、炭化物を微量、酸化鉄を多量含む。
- 2 2.5Y4/2 黒褐色シルト しまりやや弱い、暗灰黄色シルトブロックを約50%、炭化物を微量、径5mmの礫を少量、酸化鉄を多量含む。
- 3 10YR3/2 黒褐色シルト しまりやや弱い、暗灰黄色シルトブロックを約30%含む。

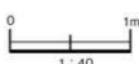
S P 46

- 1 10YR3/1 黒褐色シルト しまりやや弱い、暗灰黄色シルトを粒状に約3%、炭化物を少量、酸化鉄を多量含む。
- 2 10YR4/2 暗灰褐色シルト 粘性なし、酸化鉄を多く含む。

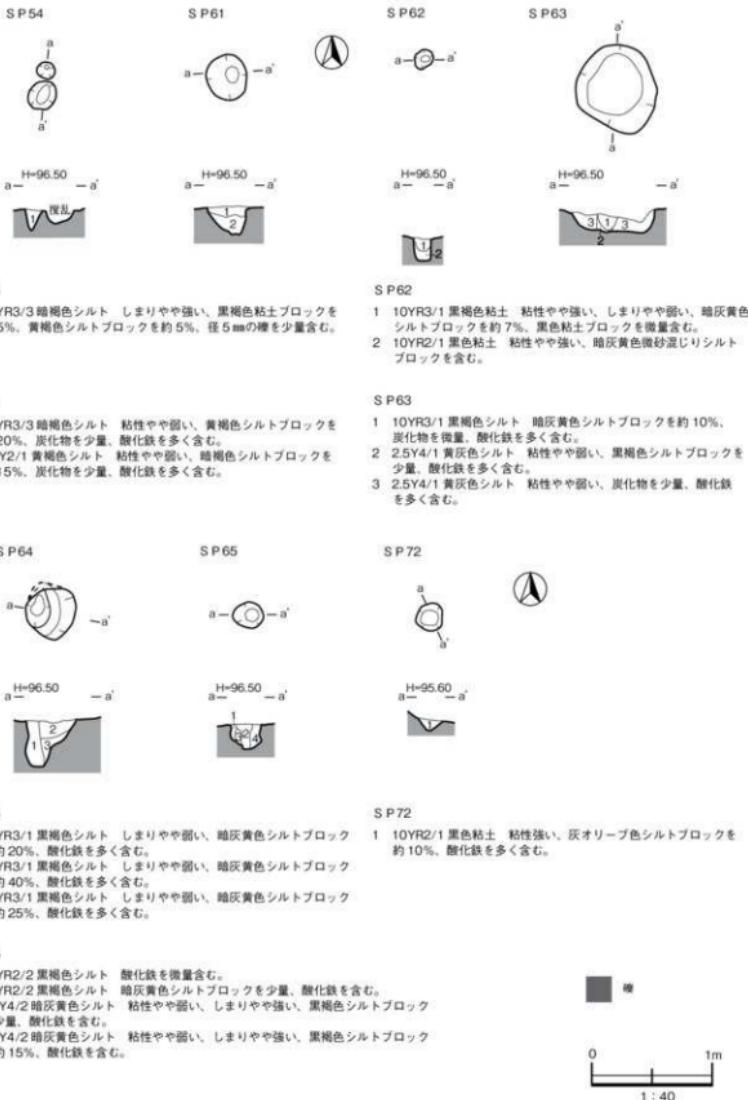
S P 49

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト しまり強い、暗灰黄色シルトブロックを約3%、酸化鉄を多量に含む。
- 2 2.5Y4/3 黑褐色シルト 粘性弱く、しまり強い、黒褐色シルトブロックを約5%含む。

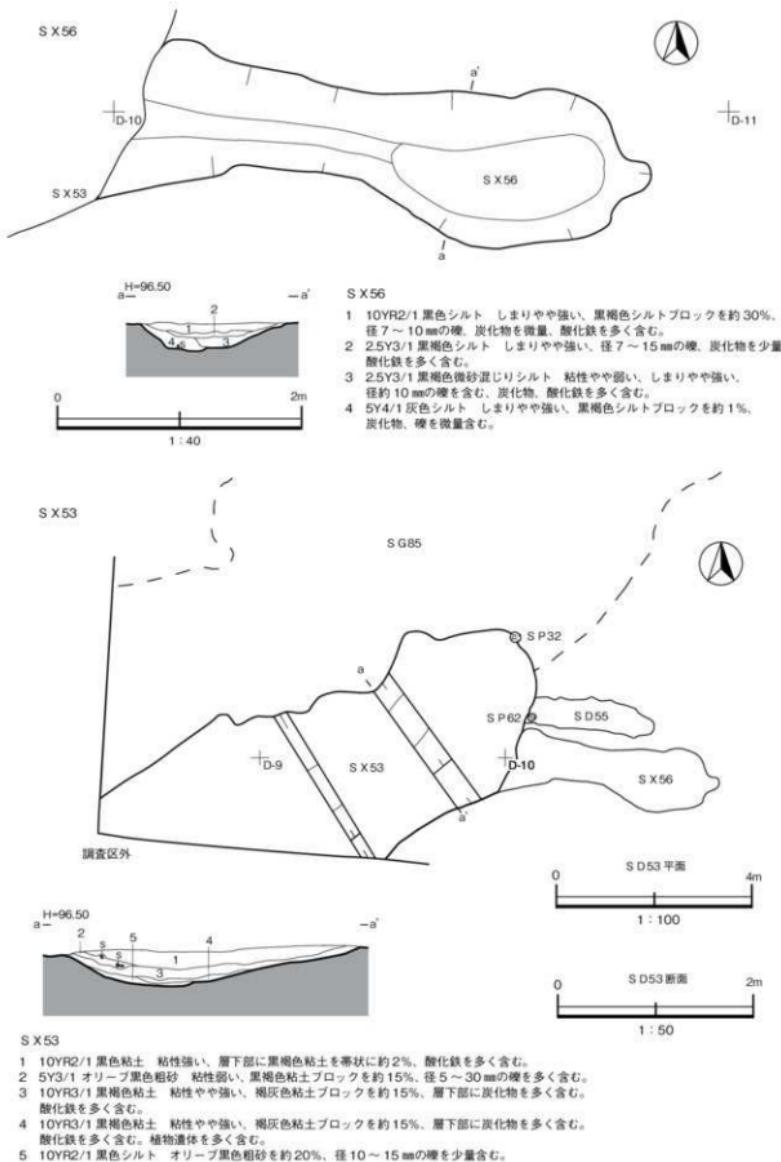
標



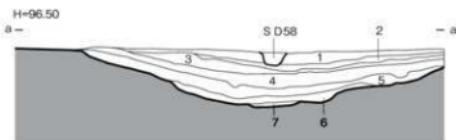
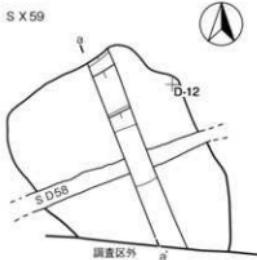
第19図 S P21, 37, 39, 41, 42, 46, 47, 49, 52ピット



第20図 SP54, 61~65, 72 ピット



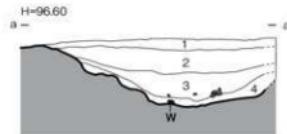
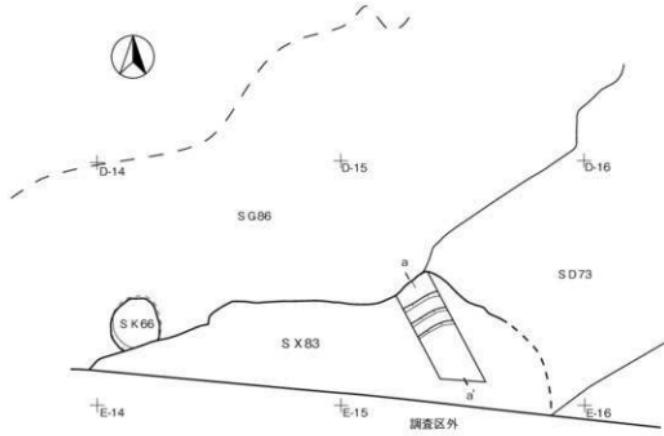
第21図 S X53, 56 性格不明遺構



S X59

- 1 10YR2/1 黒色シルト 粘性やや弱い、灰黃褐色シルトブロックを少量、酸化鉄を含む。
- 2 2.5Y3/1 黒褐色シルト しまりやや強い、炭化物を少量、酸化鉄を多く含む。
- 3 10YR4/2 灰黃褐色シルト 黒褐色シルトブロックを7%、炭化物を少量、酸化鉄を多く含む。
- 4 10YR2/1 黒色粘土 粘性やや強い、灰色粘土ブロックを約7%、炭化物を多く含む。
- 5 5Y4/1 灰色粘土 粘性やや強い、黒色粘土ブロックを約3%、炭化物を多く含む。
- 6 5Y2/1 黒色シルト 灰色微砂混じりシルトブロックを約7%、灰色粘土ブロックを約7%含む。
- 7 5Y5/2 灰オリーブ色シルト 灰色シルトブロックを約15%、植物遺体を多く含む。

S X83



S X83

- 1 10YR2/3 黒褐色粘土 粘性やや強い、炭化物を微量、径5~15mmの礫、酸化鉄を多く含む。
- 2 10YR2/3 黒褐色粘土 暗灰黄色シルトブロックを微量、明黄褐色微砂混じりシルトブロック、径5~15mmの礫を含む。
- 3 10YR3/2 黒褐色粘土 黒色粘土ブロックを約2%、層下部に円礫を含む。
- 4 10YR3/1 黒褐色粘土 粘性やや強い、灰色シルトブロックを約5%、木質遺物を含む。

第22図 S X59, 83 性格不明遺構

表2 遺構計測表

遺構	検出地区	検出層	長さ (cm)	幅 (cm)	底面標高 (m)	主軸方位	堆積状況	重複関係	備考	出土遺物
SD 1	B-C-3	IV	(180)	20 ~ 25	96.18	N -30° - E			SD2 と同一遺構	遺物 No. 1
SD 2	A - 3・4、B - 3	IV	(519)	17 ~ 32	96.18	N -30° - E			SD1 と同一遺構	遺物 No. 2
SD 7	B-C-4	IV	327	24	95.96	N -8° - E		SP9 → SD7		
SD10	B-D-6	IV	(564)	74 ~ 95	96.10	N -1° - E	人為埋土	SD10 → SP51	底面に隕 EP14	遺物 No. 32
SD13	A-B-6	IV	(162)	56 ~ 70	96.04	N -2° - E	人為埋土		SD10 と同一遺構	
SD65	C-10	III	256	60	96.08	N -90° - E	自然堆積	SP62 → SD65 → SX53	底面に SP62	
SD58	B - 15、C - 13 - 15、D - 11 - 13	III	(2340)	23 ~ 50	96.14 ~ 96.20	N -42° ~ N -72° - E	自然堆積	SK69 → SD67 → SX59 → SD68 → SD68	「く」の字に屈曲	遺物 No. 33 遺物 No. 56, 76
SD67	B-C-13-14、D-14	III	(667)	145 ~ 176	95.80 ~ 95.97	N -3° - E	自然堆積、F1 は人為	SG86 → SK69 → SD67 → SD58		遺物 No. 3
SD68	B - 15	III	205	21	96.39	N -75° - E		SD58 → SD68		
SD73	C - 16 ~ 18、D - 15 ~ 17、D - 15 - 16	III	(1350)	180 ~ 210	95.70 ~ 95.99	N -40° - E	自然堆積	SP72 → SD73 → SD81 → SK80	SX83 に合流、近代水路	遺物 No. 4 遺物 No. 34 ~ 39
SD74	B - 17、C - 15 ~ 17、D - 15 - 16	III	(1150)	185 ~ 260	96.34 ~ 96.40	N -40° - E		SD74 → SD73 → SD81	底面に細い溝が 2 余	遺物 No. 40 ~ 42 遺物 No. 57
SD77	C-D-19、C-E-18	III	(1160)	34 ~ 84	96.40 ~ 96.44	N -30° - E				
SD78	B-C-16	III	(477)	93	96.39 ~ 96.47	N -43° - E	人為埋土			
SD79	C-18	III	120	29 ~ 44	96.47	N -46° - W		SD79 → SD81		
SD81	C-16 ~ 18	III	(960)	42 ~ 61	96.38	-	人為埋土	SD73 · 74 · 79 → SD81 → SK80		
SD82	C-D-17、C-18 ~ 19	III	(815)	24 ~ 53	96.34 ~ 96.38	N -57° - E	自然堆積			
SG85	B-D-8、B-C-9 ~ 10、B-C-11	IV	(1230)	304 ~ 790	-	-	自然堆積	SG85 → SX53 · 他ピット多數	IV 層に伴う旧河	
SG86	B-13、B-C-4、B-D-15-16	IV	(1620)	395 ~ 528	-	-	自然堆積	SG86 → SX53 · 71 · 67 · SD74 · 78 · SK66	IV 層に伴う旧河	
遺構	検出地区	検出層	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	壁・底の形状	堆積状況	重複関係	備考	出土遺物
SK3	B-4	IV	134	107	10	壁: 繩やか底: 平坦	1 ~ 2 層は 搅乱か		炭化粒子含む、酸化	
SK16	B-8	III	78	66	36	壁: 垂直底: やや凹凸有			円窓を含む	クルミ外殻
SK31	B-8	III	80	50	36	壁: 急斜底: 平坦				
SK66	D-14	-	110	100	42	壁: 垂直・袋状底: 平坦	自然堆積 + 人為埋土	SG86 → SK66 → SX83 井戸跡		
SK69	C-14	III	162	160	28	壁: 急斜底: 平坦	壁上に大きめの の羅を含む	SK69 → SD67 → SD58	平面 四方形	遺物 No. 6
SK80	C-17	III	195	70	65	壁: 垂直底: 平坦	自然堆積	SD73 → SD81 → SK80 南側テラス状		
SX4	C-4	IV	140	105	13	壁: 繩やか底: やや凹凸有			根拠品	遺物 No. 5
SX5	C-4	IV	123	48	11	壁: 繩やか底: やや凹凸有			根拠品	遺物 No. 45
SX11	B-4	IV	163	42	13	壁: 繩やか底: 平坦	単層		炭化粒多量	
SX50	B-11	III	165	33	14	壁: 繩やか底: 平坦	単層		炭化粒多量	
SX53	C-D-8 ~ 10	III	(920)	290 ~ 350	36	壁: 繩やか底: 平坦	自然堆積	SG85 · SD55 · SX56 → SX53	旧地形 底地	
SX56	C-D-10	III	420	70 ~ 114	23	壁: 繩やか底: 船底形	自然堆積	SX56 → SX53	層状炭化物	
SX59	C-D-11-12	III	(480)	352	56	壁: 繩やか底: 平坦	自然堆積	SX59 → SD58	旧地形 宮地	炭化粒多量
SX71	C-D-14	-	307	157	23	壁: 繩やか底: やや凹凸有	単層	SG86 → SX71		
SX83	D-14-15	-	-	-	68	壁: 繩やか底: 平坦	自然堆積	SG86 → SK66 → SX83 旧地形 宮地	木質遺物 No. 77	
SX84	B-4	IV	65	55	5	壁: 繩やか底: 平坦	単層		炭化粒多量	

IV 調査の成果

遺構	出土地区	棟出現	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	平面形	遺存	覆土数	堆積状況	出土遺物	備考
SP6	C-5	IV	70	44	37	不整円形	良	9	自然堆積 + 人為		掘り方、柱抜取り痕。 遺物No.43
SP8	C-2	IV	49	48	17	円形	不良	2	-		
SP9	C-4	IV	90	60	50	楕円形	良	3	人為埋土	SP9 → SD7	柱根
SP12	C-5	IV	54	43	26	円形	良	1	人為埋土		底に礫、根固め石々
SP15	B-C-5	IV	73	45	18	不整円形	不良	2	自然堆積		
SP17	C-10	III	48	36	31	不整円形	不良	3	自然堆積		
SP18	B-10	-	46	44	38	円形	良	4	自然堆積	SG85 → SP18	
SP19	C-10	-	40	37	27	不整円形	良	4	人為埋土	SG85 → SP19	柱根 樹固め石々
SP20	C-10	III	22	20	25	円形	不良	2	自然堆積		
SP21	B-8	III	42	31	20	楕円形	不良	2	-		
SP22	C-8	-	41	39	13	円形	不良	1	-	SG85 → SP22	
SP23	C-8	-	73	53	21	不整円形	不良	1	-	SG85 → SP23	
SP24	C-8	-	58	44	11	楕円形	不良	1	-	SG85 → SP24	
SP25	C-8	-	50	38	10	楕円形	不良	1	-	SG85 → SP25	
SP26	C-9	-	28	24	13	円形	不良	1	-	SG85 → SP26	
SP27	B-C-9	-	58	46	18	隅丸方形	良	1	-	SG85 → SP27	
SP28	C-9	-	31	29	11	円形	不良	1	-	SG85 → SP28	
SP29	B-9	-	50	44	20	円形	良	1	-	SG85 → SP29	
SP30	B-9	-	59	38	15	不整円形	良	1	-	SG85 → SP30	
SP32	C-10	-	21	21	18	円形	良	1	-	SG85 → SX53 → SP32	
SP33	B-10	-	49	47	22	不整円形	良	1	-	SG85 → SP33	
SP34	C-10	-	28	26	25	円形	良	1	-	SG85 → SP34	
SP35	C-10	-	24	18	22	楕円形	良	1	-	SG85 → SP35	
SP36	C-10	III	25	22	22	円形	良	1	-		
SP37	C-10	III	23	21	27	円形	不良	1	-		遺物No.44
SP38	C-11	III	15	14	26	円形	良	1	-		
SP39	C-10	III	32	26	26	不整円形	良	3	人為埋土		根固め石
SP40	B-10	-	21	16	9	不整円形	不良	1	-	SG85 → SP40	
SP41	B-10	-	23	21	20	円形	不良	3	-	SG85 → SP41	
SP42	B-10	III	46	38	43	円形	良	3	-		
SP43	B-10	-	27	25	19	円形	不良	1	-	SG85 → SP43	
SP44	B-C-10	-	27	27	16	円形	不良	1	-	SG85 → SP44	
SP45	B-10	-	49	39	7	長円形	不良	1	-	SG85 → SP45	
SP46	C-11	III	23	19	26	円形	良	2	人為埋土		柱根？
SP47	B-11	III	24	18	27	不整円形	不良	3	自然堆積？		
SP48	C-12	III	38	37	11	円形	不良	1	-		
SP49	B-11	III	24	21	22	円形	不良	2	-		
SP51	C-6	IV	29	28	14	隅丸方形	不良	1	-	SD10 → SP51	
SP52	B-11	III	23	19	25	円形	不良	3	-		
SP54	B-11	III	15	13	16	円形	不良	1	-		
SP57	B-5	IV	72	51	24	長円形	良	1	-		
SP60	C-12	III	32	25	9	長円形	不良	1	-		
SP61	B-12	III	32	37	24	円形	不良	2	自然堆積？		
SP62	C-10	III	18	15	18	円形	不良	2	自然堆積？	SP62 → SD65	
SP63	B-12-13	III	74	67	19	不整円形	不良	3	-		柱根？
SP64	B-13	III	43	40	37	不整円形	不良	3	人為埋土		
SP65	C-12	III	26	20	20	不整円形	不良	4	-		
SP70	D-15	III	48	47	5	長円形	不良	1	-		
SP72	D-15	III	32	23	8	円形	不良	1	-	SP72 → SD73	

2 遺物

土師器と須恵器を合わせた出土数が最も多く、土師器28点・須恵器8点の合計36点である。土師器は摩滅が著しく、調整を確認できたものは少なかった。須恵器では微量の海綿骨針混入を確認できるものが出土しており、本遺跡に近いところでは、二子沢窯跡や平野山古窯跡群からも海綿骨針混入の須恵器が出土している。出土した土師器・須恵器は、その調整・切り離しの技法とともに9世紀代の生産と推定される。

陶磁器は、近代に生産されたと考えられるものが多いが、その中でも比較的古い遺物は、15~16世紀の龍泉窯の青磁、大窯段階の瀬戸美濃、17世紀以降の唐津等

がある。陶器について、擂鉢(18)と横軸橋跡から出土した擂鉢を比較すると、胎土が非常に近く、同一産地と考えられる。但し、鉢目は前者が太く後者が細いという相違点もある。磁器に関しては、外面に「寶」字と植物文の碗(26)は鶴ヶ岡城跡から出土した瀬戸美濃の碗と同一生産地のものと判じる。また、肥前と思われるものが多く出土した。土器・陶磁器に関して産地不明のものは在地の可能性が高く、時期不明のものは古くとも近世と考える。

遺構内出土遺物24点のほとんどが、覆土の1層目から出土していることや、残り53点が遺構外から出土していることから、遺物の多くが流れ込みであると考えられる。

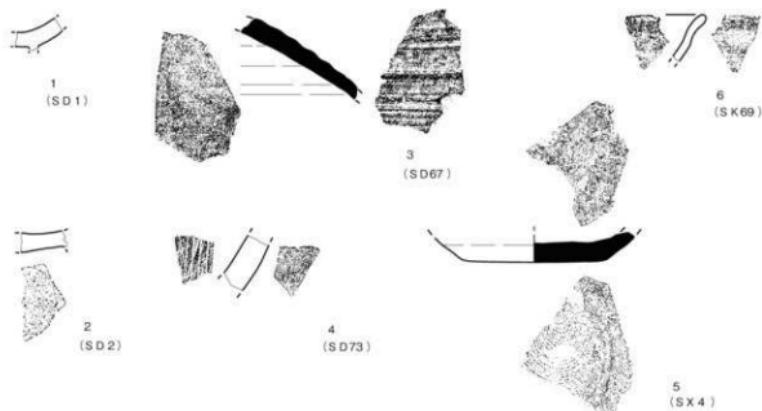
表3 遺物観察表

No	出土 地点	層位	種類	器種	部位	口径 底径	高さ 基部	器厚	胎土	色調	調整等	備考	
1	SD1	F1	縦器	碗	体~底	-	[13]	6.5	緻密・微繊な黒色粘土量混入	釉・内外面透明釉 胎土…75Y8/1灰白色		肥前・高台福圓城・被熱・時期不明	
2	SD2	F1	陶器	碗	底	-	[9]	6.5	緻密・微繊な黒色粘土量混入	釉…25Y2/1黑色 胎土…25Y6/1黄灰色	底部ケズリ	内部鉄軸・被熱・時期産地不明	
3	SD67	F1	須恵器	蓋	体	-	[34]	7	緻密・海綿骨針を含む	N6.0灰白色	内外面ロクロ	9C代	
4	SD73	F1	陶器	擂鉢	体	-	[22]	10	緻密・微繊な白色粘土量混入	10R5/4赤褐色	内面印目・外側ロクロ	明治以降	
5	SX4	F1	須恵器	壺	体~底	-	(60)	[12]	6.2	緻密・海綿骨針を含む	55Y7/1明オリーブ灰色	回転系切・9C代	
6	SK69	F1	土師器	壺	口~体	-	[19]	27	緻密	75YR7/4にぶい橙色	内外面ロクロ	9C代	
7	B-4	IV	縦文土器	深鉢	体	-	[38]	6	粗	10YR8/3浅黃橙色		外面に隆沈線文(竜巣)・漢文(大木SB)有	
8	B-5	IV	縦文土器	深鉢	頭	-	[21]	5	粗・砂粒多量混入	7.5YR7/3にぶい橙色	内面ヨコナデ	時期不明	
9	D-13	III	土師器	壺	体	-	[19]	36	緻密・砂粒少量混入	10YR7/3にぶい黄橙色	内外面ロクロ	9C代	
10	C-13	II	土師器	壺	底	-	(60)	[7]	5	緻密	5YR7/8橙色	内面ロクロ	回転系切・9C代
11	D-13	III	土師器	壺	底	-	[11]	7.6	緻密	5YR7/8橙色	内外面ロクロ	9C代	
12	C-4	表様	須恵器	高台付壺	底	-	(81)	[155]	5.5	緻密	5BS/1青灰色	内面ロクロ	回転系切・9C代
13	B-9	II	須恵器	小型壺	体	-	[32]	9	緻密	25Y7/1灰白色	内面ロクロ・外側回転ヘラギ色	9C代	
14	D-12	表土	須恵器	壺	体	-	[37.5]	10.5	緻密・赤色粘土量混入・海綿骨針を含む	N7.0灰白色	内面ナデ・外側タタキ	9C代	
15	D-13	表土	陶器	碗	体~底	-	(61)	[455]	9	緻密	釉…10YR6/4にぶい黄橙色 胎土…75YR7/3にぶい橙色	唐津・内面磨毛目・内外面灰軸・外側底部露胎・見込砂目・17C以降	
16	C-9	II	陶器	茶碗	口~体	-	[18]	6	粗・砂粒微量混入	釉…7.5YR4/4褐色 胎土…75YR8/2灰白色	瀬戸美濃・天目茶碗カ・外側鉄軸・大窓段階		
17	C-13	II	陶器	碗	体	-	[24]	4.2	緻密	釉…25Y7/2灰黄色 胎土…25Y8/1灰白色	内外面ロクロ	灰軸・被熱力・体部の下半が露胎	
18	C-9	TT2	陶器	擂鉢	体	-	[23]	8.5	緻密・黒色粘土量混入	10R5/6赤褐色	内面印目・外側ロクロ	明治以降	
19	C-6	撲瓦	陶器	擂鉢	体	-	[18]	10	緻密・黒色粘土量混入	釉…2.5YR4/1赤灰色 胎土…25YR5/4にぶい赤褐色	内外面施釉・明治以降		
20	B-3	IV	陶器	片口 鉢	口~体	-	[175]	4.3	緻密	釉…2.5Y3/1黒褐色 胎土…25Y7/1灰白色	鉄軸・口縁部に穿孔・穿孔箇所に剥離痕・時期産地不明		

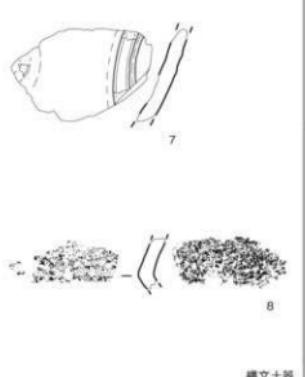
No.	出土 地点	層位	種別	器種	部位	口径	底径	器高	器厚	胎土	色調	調整等	備考
21	C-4	擾乱	陶器	火鉢 力	底	-	-	[14]	12	粗・白色砂粒混入	5YR6/6 棕色	内面ナデ	
22	D-5	I	陶器	皿	口～ 体	(27)	-	[21]	3.8	緻密	輪・内外透明釉 胎土・25Y8/1 灰白色	口縁部に貫入・時期產地不明	
23	C-9	II	青磁	碗	口	-	-	[15]	6	緻密・微細な黒 色粒微量混入	輪・5GY6/1 オリーブ色 胎土・7.5Y7/1 灰白色	龍泉窯・15～16C	
24	D-15	II	青磁	碗	体	-	-	[16]	11	緻密	輪・7.5GY6/1 緑灰色 胎土・5Y7/1 灰白色	龍泉窯・15～16C	
25	C-10	I, II	磁器	碗	口～ 体	-	-	[18]	2.9	緻密・微細な黒 色粒微量混入	輪・内外透明釉 胎土・7.5Y8/1 灰白色	肥前・外削格子文・内面二重團継・幕末～明治	
26	C-12	II	磁器	碗	口～ 体	-	-	[39]	3	緻密	輪・内外透明釉 胎土・N8-0 灰白色	瀬戸美濃・外腹「賣」・植 物文・幕末～明治	
27	C-10	I, II	磁器	小碗	体～ 底	-	(38)	[28]	4.7	緻密・微細な黒 色粒少量混入	輪・内面透明釉 胎土・7.5Y1/1 灰白色	外腹不明絵付・外面全体高台窯二重團継・昭和以降	
28	C-12	擾乱	磁器	碗	体～ 底	-	33	[24.5]	3	緻密・黑色粒混入	輪・内外透明釉 胎土・N8-0 灰白色	高台窯二重團継・外腹 墨・日暮・針使用付・昭和以降	
29	C-10	I, II	磁器	瓶	体～ 底	-	(28)	[27]	7	緻密・黑色粒少 量混入	輪・内外透明釉 胎土・25Y7/2 灰黃色	肥前・高台窯團継・内面露 胎あり・時期不明	
30	C-18	擾乱	磁器	花瓶	口～ 頭	(22)	-	[14.5]	3	緻密	輪・透明釉 胎土・5YH1/1 灰色	内面ロクロ引き	時期不明・内面は露胎
31	C-10	I, II	石製 品	石板	長径	短径	-	[52]	3.4	厚さ	N3/0 煙灰色		明治以降
32	SD10	F1	土師 器	壺	体～ 底	-	-	-	4.1	緻密	7.5YR6/4 にぶい棕色	内面螺付着・9C代	
33	SD58	F1	土師 器	壺	体	-	-	-	6	緻密	10YR8/2 灰白色	9C代	
34	SD73	F1	土師 器	壺	体	-	-	-	3.3	緻密	7.5YR8/4 浅黄褐色	9C代	
35	SD73	F1	土師 器	壺	体	-	-	-	4.3	緻密	7.5YR7/4 にぶい棕色	9C代	
36	SD73	F1	土師 器	壺	体	-	-	-	4.1	緻密	7.5YR7/4 にぶい棕色	9C代	
37	SD73	F1	土師 器	壺	体	-	-	-	3.8	緻密	7.5YR6/6 棕色	9C代	
38	SD73	F1	土師 器	不明	体	-	-	-	[5.5]	緻密	7.5YR6/4 にぶい棕色	9C代	
39	SD73	F1	土師 器	壺	体	-	-	-	[3.1]	緻密	5YR6/6 棕色	9C代	
40	SD74	F2	土師 器	壺	体	-	-	-	[2.4]	緻密	7.5YR7/6 棕色	9C代	
41	SD74	F1	土師 器	壺	体	-	-	-	[3.9]	緻密	7.5YR8/4 浅黄褐色	9C代	
42	SD74	F1	土師 器	壺	体	-	-	-	4.7	緻密	7.5YR7/3 にぶい棕色	9C代	
43	SP6	F1	土師 器	壺	力	体	-	-	[2.2]	緻密	5YR6/8 棕色	9C代	
44	SP27	Y	土師 器	壺	体	-	-	-	7	やや粗・砂粒混 入	2.5Y6/2 灰黄色	9C代	
45	SX5	F1	土師 器	壺	体	-	-	-	[4.6]	緻密	7.5YR7/6 棕色	9C代	
46	B-3	IV	土師 器	壺	口	-	-	-	8.8	やや粗・砂粒混 入	10YR7/6 棕色	9C代	
47	C-3	IV	土師 器	壺	体	-	-	-	3.9	緻密	7.5YR7/6 棕色	9C代	
48	C-5	IV	土師 器	壺	体	-	-	-	[3.9]	緻密	7.5YR7/6 棕色	9C代	
49	C-9	II	土師 器	壺	体	-	-	-	4	緻密	7.5YR6/6 棕色	9C代	
50	C-13	II	土師 器	壺	体	-	-	-	5.8	緻密	7.5YR7/6 棕色	9C代	
51	D-12	II	土師 器	壺	体	-	-	-	4.6	緻密	10YR7/4 にぶい黄褐色	内外面ロクロ	9C代
52	D-12	II	土師 器	壺	体	-	-	-	[6.8]	緻密	7.5YR6/6 棕色	9C代	
53	D-12	II	土師 器	壺	体	-	-	-	6	緻密	10YR7/3 にぶい黄褐色	9C代	
54	D-16	土師 器	壺	体	-	-	-	-	3.2	緻密	7.5YR7/4 にぶい棕 色	9C代	
55	D-19	擾乱	土師 器	不明	体	-	-	-	7.6	緻密	5YR7/6 棕色	9C代	
56	SD58	F1	須恵 器	壺	体	-	-	-	4.8	緻密	N-55 グレー	内外面ロクロ	9C代
57	SD74	F1	須恵 器	不明	体	-	-	-	6.1	緻密	5Y6/1 灰色	内外面ロクロ	9C代

No	出土 地点	層位	種別	器種	部位	口径	底径	器高	器厚	胎土	色調	調整等	備考
58	C-12	Ⅱ	撫亂 陶器	壺	体	-	-	-	4.1	緻密	5Y6/1 灰色	内外面クロコ	9C 代
59	C-13	Ⅱ	陶器	擂鉢	体	-	-	-	[86]	緻密・黑色粒混 入	釉…25YR3/1 暗赤灰色 胎土…25YR4/6 赤褐色		施釉・No 19 と同じ產地の 可能性
60	B-9	Ⅱ	陶器	鉢	体	-	-	-	4.6	緻密・黑色粒混 入	25Y5/1 黄灰色	内外面クロコ	素焼・時期不明
61	B-12	Ⅱ	陶器	急須 力	体	-	-	-	1.5	緻密・微細な黑 色粒混入	釉…75G V5/4 松葉色 胎土…25Y7/2 黄灰色		内面露胎・昭和以降
62	C-10	撫亂	陶器	壺	体	-	-	-	5.8	緻密・白色粒混 入	釉…10Y4/2 オリーブ灰色	内面ナテ	在地カ・灰釉・時期不明
63	D-11	撫亂	陶器	碗	体	-	-	-	5.6	緻密・白色粒混 入	釉…25YR3/3 暗赤褐色 胎土…25Y7/2 黄灰色		内外面鉄釉・被熱・時期產 地不明
64	D-19	撫亂	陶器	不明		-	-	-	[19]	粗・粗砂混入	5YR6/6 棕色		
65	B-10	Ⅱ	土器	不明		-	-	-	2.2	緻密	75YR7/6 棕色		両面に型押文様・時期產 地不明
66	A-2	I	磁器	皿	体	-	-	-	3.1	緻密	釉…内外面透明釉 胎土…N95 和白色		内面不明釉付・昭和以降
67	B-11	Ⅱ	磁器	碗	口～ 体	-	-	-	2.7	緻密	釉…内外面透明釉 胎土…75Y1/1 黄白色		口縁に團線・昭和以降
68	C-9		磁器	碗	体	-	-	-	3.1	緻密	釉…内外面透明釉 胎土…N95 乳白色		肥前・外側不明釉付・見込 團線・被熱・明治以降
69	C-9	TT2	磁器	碗	体	-	-	-	2.6	緻密	釉…内外面透明釉 胎土…N95 乳白色		肥前カ・外側放射状紋付・ 釉が白濁・明治以降
70	C-10	I II	磁器	碗	体	-	-	-	3.9	緻密・黑色粒混 入	釉…内外面透明釉 胎土…N95 乳白色		肥前・外側結節草・明治以 降
71	C-10	I	磁器	碗	体	-	-	-	2.3	緻密	釉…内外透明釉 胎土…N95 乳白色		外側不明色絆・昭和以降
72	C-15	TT3	磁器	碗	口	-	-	-	2.7	緻密	釉…内外面透明釉 胎土…N95 白色		肥前カ・内面二重團線・外 面植物文・明治以降
73	C-18	撫亂	磁器	不明		-	-	-	4	緻密・白色粒微 量混入	釉…底部透明釉 胎土…N95 乳白色		底部布疋痕・時期不明
74	D-5	I	磁器	瓶	体	-	-	-	4	緻密・微細な黑 色粒混入	釉…外側透明釉 胎土…N95 白色		肥前・外側に化粧崩後施 錆・外側植物文・幕末～明 治カ
75	D-12	Ⅱ	磁器	小碗	口～ 体	-	-	-	3	緻密	釉…内外面透明釉 胎土…N95 白色		昭和以降・口縁に歪み(輪 花カ)・内面不明釉付
76	SD58	F1	木製 品	不明		長径	短径		厚さ				
						[75]	[22]		5				
77	SX83	F4	木製 品カ	不明		長径	短径		厚さ				
						[87]	[16]		5				

遺構出土遺物

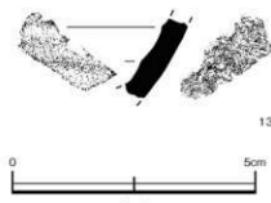
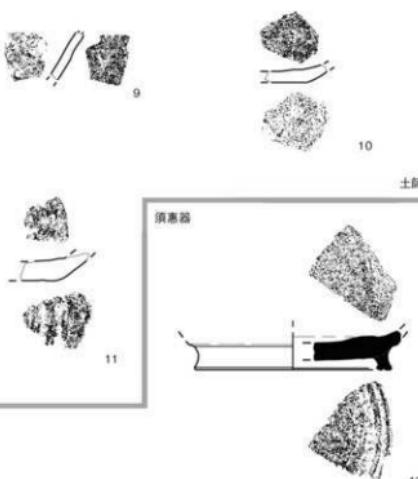


遺構外出土遺物



縄文土器

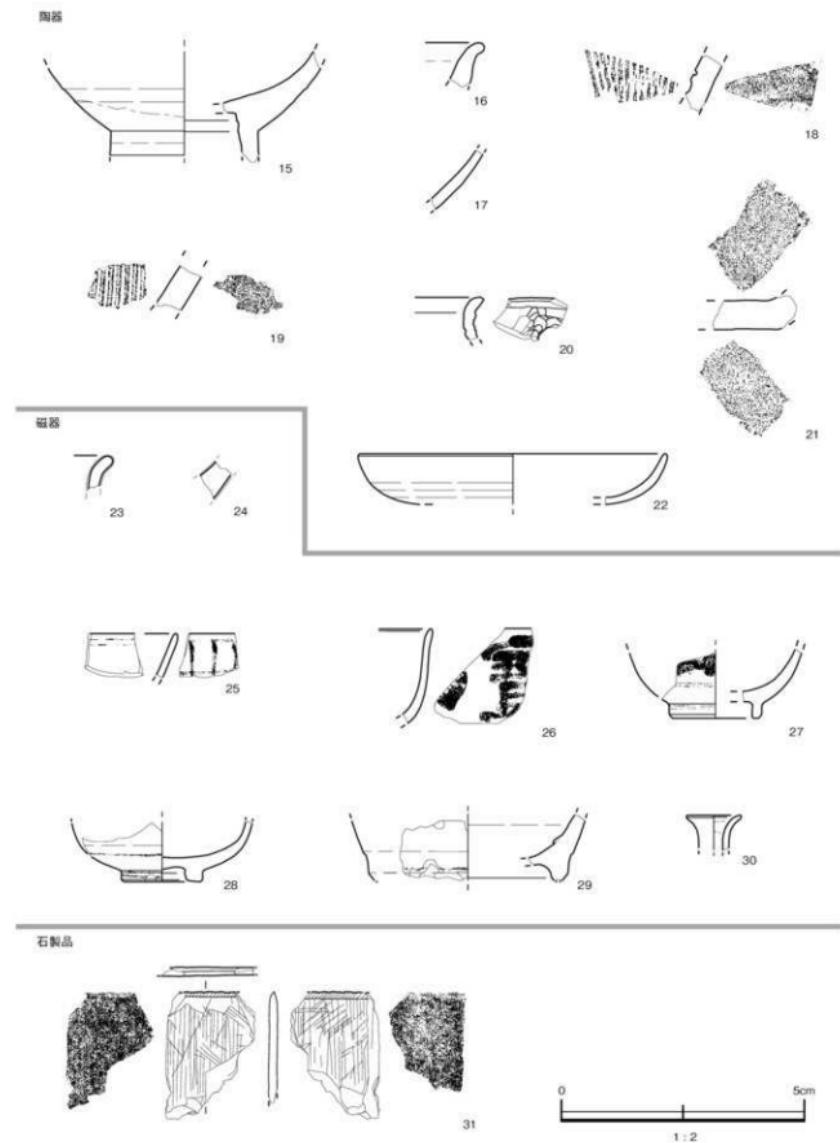
土師器



0 5cm

1:2

第23図 遺構出土遺物、遺構外出土遺物(縄文土器・土師器・須恵器)



第24図 遺構外出土遺物（陶器・磁器・石製品）

V 総括

クゲノ遺跡は天童市大字小間に所在し、平成20年度の試掘調査により古代から中世の遺跡として登録された。乱川扇状地の前線部に立地し、その調査範囲は東西約90m、南北13mを測る。今回の調査は、主要地方道天童大江線改良工事にともなう緊急発掘調査で、遺跡にかかる約1,170m²を対象として実施した。

遺構はは場整備時に大きく削平を受けたものと考えられ、表土から20~30cm程度のところでの検出となった。砂礫の堆積状況から遺跡近辺は河川の氾濫を受けていたと考えられる。これにより失われた遺構もあったのではないかと推測され、全体的に遺構は希薄であった。検出された遺構は、土坑、ピット、溝跡、性格不明遺構などである。

ピットの中にいくつか柱痕を確認できるものもあったが、建物跡を検出するには至らなかった。また、出土遺物の数が少なく、土坑・溝跡についても、どのような性格であったのかなどについては不明である。また、本遺跡を含む近隣地域の明治期の地籍図からは、田畠地として利用されていたこと以外本遺跡の遺構に関する情報

を読み取ることはできなかった。

出土した遺物の内容は、わずかな縄文土器と9世紀代の土師器、須恵器、中世・近代陶磁器などである。遺物の多くが小片でしかも単独の状態で出土していること、縄文土器、土師器のほとんどは摩滅が著しいこと、遺物の多くが、遺構内からであれば、覆土の1層目から出土していることから、遺物のほとんどは流れ込みと考えられる。上記の河川氾濫も流れ込みに関連していると思われる。

乱川扇状地の前線部には平安時代を中心として、縄文から中世までの遺跡が数多く存在し、近世にも小閑村・高木村・成生村などが形成されており、現在まで続いている。この一帯が生活の場として適していたことを物語るものである。クゲノ遺跡もこの一帯に属しており、古来人々の生活圏であったことが十分考えられる。一方で上記のような遺物出土・遺構検出状況から調査区域は集落の中心とは判断しえず、集落の周辺部と考えるのが妥当であろう。遺跡中心は調査区の北側にあった可能性が高く、今後の調査に期待するところである。

参考文献

- 山形県企画調整部土地対策課 1981 「土地分類基本調査 植岡」
- 天童市史編さん委員会 1978 「天童市史 別巻上 地理・考古篇」
- 天童市史編さん委員会 1981 「天童市史 中巻 近世篇」
- 天童市史編さん委員会 1987 「天童市史 上巻 原始・古代・中世篇」
- 瀬戸市史編纂委員会 1998 「瀬戸市史 陶磁篇6」
- 九州近世陶磁学会 2000 「九州陶磁器の編年」
- 藤澤良祐 2002 「瀬戸・美濃大窯編年の再検討」(瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要第10輯)
- 財团法人山形県埋蔵文化財センター 1994 「押切道路発掘調査報告書」(山形県埋蔵文化財センター調査報告書第13集)
- 財团法人山形県埋蔵文化財センター 1996 「横助宿跡・水沢駅跡発掘調査報告書」(山形県埋蔵文化財センター調査報告書第39集)
- 天童市教育委員会 1997 「高野坊遺跡発掘調査報告書」(天童市埋蔵文化財調査報告書第16集)
- 財团法人山形県埋蔵文化財センター 1998 「平野山古窯跡群第12地点遺跡第2次発掘調査報告書」(山形県埋蔵文化財センター調査報告書第53集)
- 天童市建設部建設課・天童市教育委員会 1999 「天童市塚原目A遺跡発掘調査報告書」(天童市埋蔵文化財調査報告書第22集)
- 天童市建設部都市計画課・押切遺跡緊急発掘調査団 2001 「天童市押切道路発掘調査報告書」(天童市埋蔵文化財調査報告書第25集)
- 財团法人山形県埋蔵文化財センター 2002 「鶴ヶ岡城跡発掘調査報告書」(山形県埋蔵文化財センター調査報告書第99集)
- 財团法人山形県埋蔵文化財センター 2003 「歳増押切道路発掘調査報告書」(山形県埋蔵文化財センター調査報告書第112集)
- 財团法人山形県埋蔵文化財センター 2004 「的場遺跡第2・3次発掘調査報告書」(山形県埋蔵文化財センター調査報告書第126集)
- 財团法人山形県埋蔵文化財センター 2004 「板橋1第2次・板橋2第2~4次発掘調査報告書」(山形県埋蔵文化財センター調査報告書第125集)

写真図版



1区 土層断面（南東から）



2区 土層断面（南東から）



3区 土層断面（南東から）



1区 完掘状況（東から）



2区 棲出状況（西から）



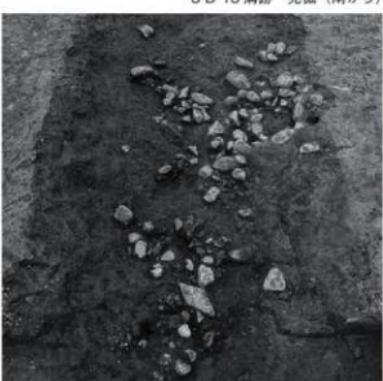
2区 実掘状況（東から）



3区 検出状況（東から）



3区 完振状況（東から）





SD 1・2溝跡 完掘（南西から）



SD 7溝跡とSP 9ピット 完掘（北から）



SD 58溝跡 完掘（東から）



SD 58・67溝跡・SK 69 完掘（南西から）

同上 土層断面（西から）



SD 74 溝跡 北半 完掘 (南西から)



SD 74・78 溝跡 土層断面 (南から)



SD 79・81 溝跡 (東から)



SD 73 溝跡 トレンチ b 土層断面 (南から)

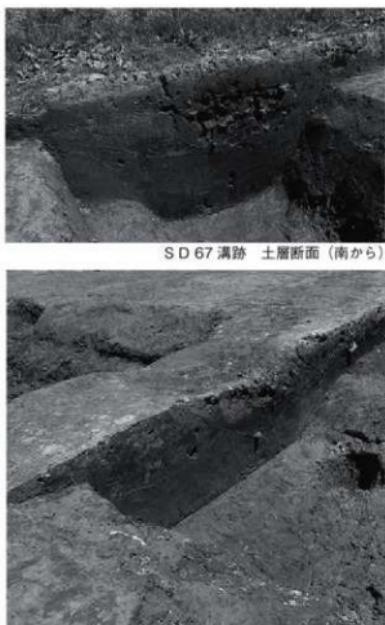
同上トレンチ c 土層断面 (南から)



SD 73, 74, 78, 81 溝跡 (南西から)



SD 67 溝跡 完掘 (南から)



SD 67・58 溝跡・SK 69 土坑 土層断面 (南西から)



SD81 溝跡 完掘 (西から)



SD82 溝跡 完掘 (南西から)



SD77 溝跡 完掘 (南西から)



SK 80 土坑 完掘（西から）



SK 3 土坑 完掘（北東から）



同左 土層断面（西から）



SK 16 土坑 土層断面（南から）



同左 完掘（北から）



SK 66 土坑 土層断面（東から）



同左 完掘（北東から）



SD 55 溝跡・S X 56 性格不明遺構 完掘（東から）



S X 56 性格不明遺構 炭化物検出状況（南東から）



同上 土層断面（東から）



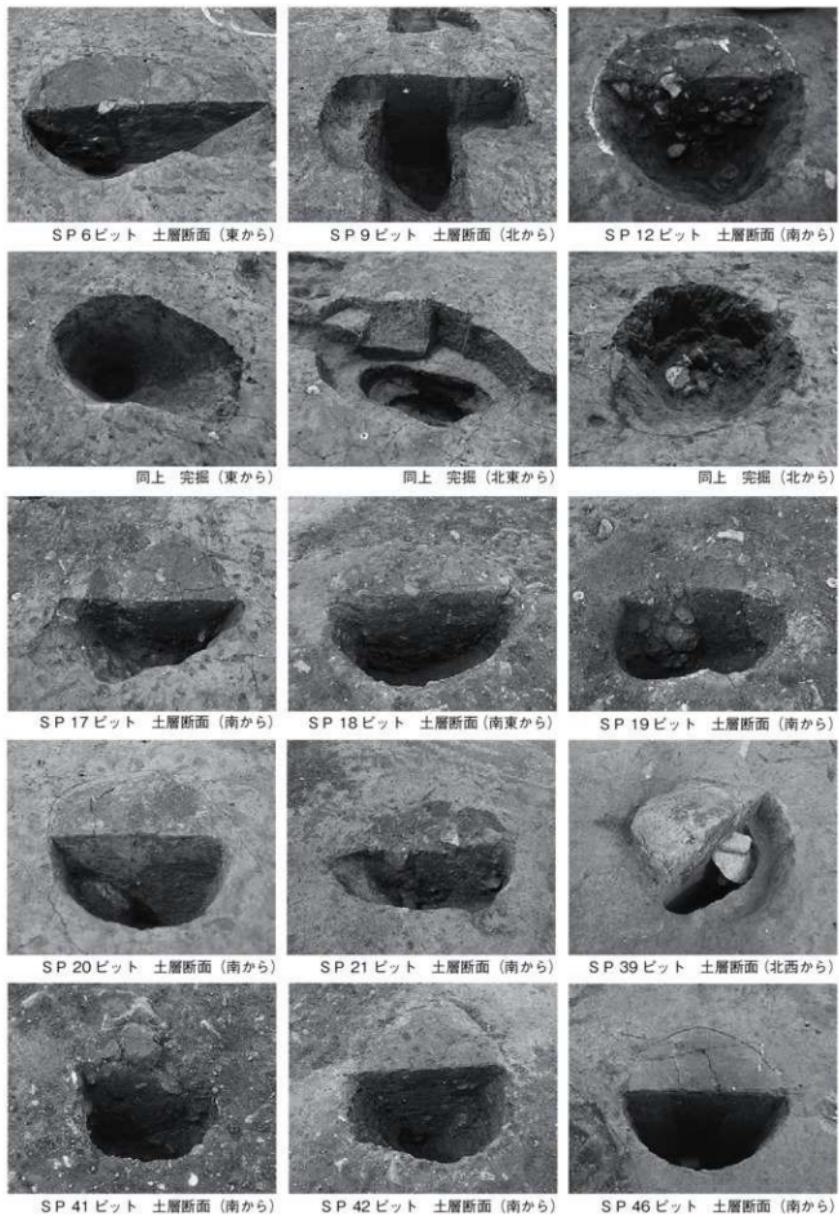
S X 53 性格不明遺構 土層断面（北から）



S X 59 性格不明遺構 土層断面（北から）



S X 53・59 性格不明遺構（東から）





SP 47 ピット 完掘（北東から）



SP 49・52 ピット 土層断面（南から）



SP 61 ピット 土層断面（南から）



SP 62 ピット 完掘（東から）



SP 63 ピット 土層断面（北西から）



SP 65 ピット 土層断面（南から）



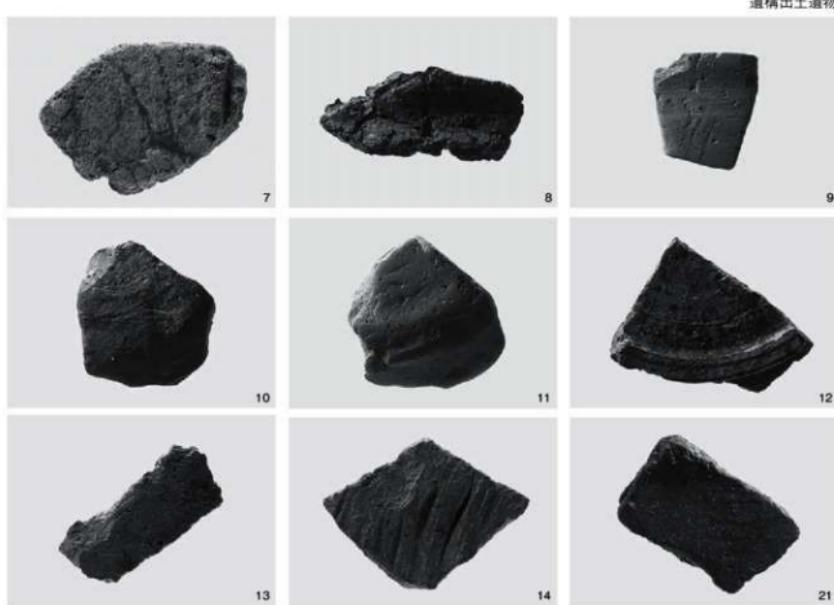
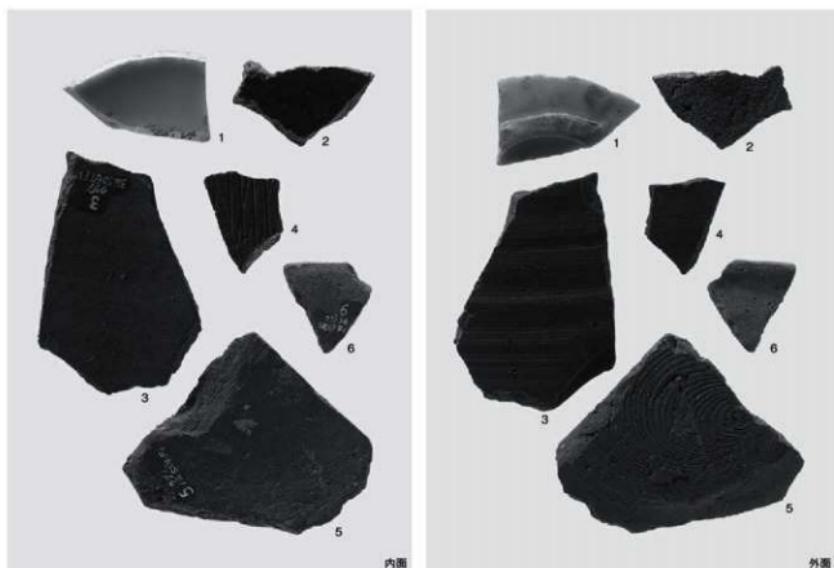
遺物出土 № 28 (南から)



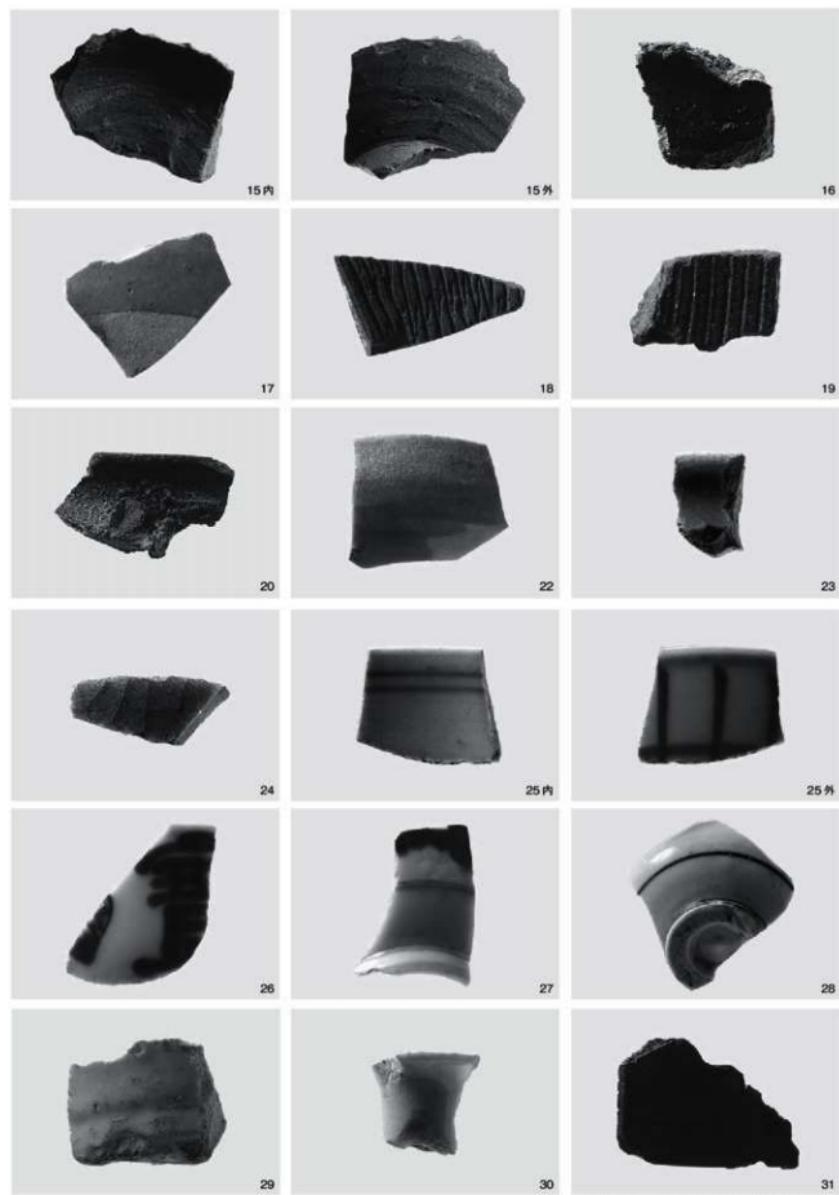
面積査定作業（西から）



面積計測作業（東から）



遺構外出土遺物（繩文土器・土師器・須恵器他）



遺構外出土遺物（陶器・磁器・石製品）

報告書抄録

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第189集

クグノ遺跡発掘調査報告書

2010年3月31日発行

発行 財團法人 山形県埋蔵文化財センター
〒999-3161 山形県上山市弁天二丁目15番1号

電話 023-672-5301

印刷 田宮印刷株式会社
〒990-2251 山形県山形市立谷川三丁目1410番1号
電話 023-686-6111

